

Ⅲ.「学修行動に関する調査」結果報告

結果まとめ

本調査報告は、2019 年度後期の履修登録オリエンテーション時に実施したアンケートへの学生の回答に基づいて学修行動を調査・分析したものである。

今回から新たに SNS の利用状況について調査した。全国的な調査結果と比べてかなりの時間を費やしているように見えるが、調査項目の違いがあり、実態は全国平均と大差ないものと思われる。

全体としては本学学生に特に大きな問題は見られず、ほとんどの学生は授業にも熱心に取り組み、部局間の相違はあるが、ボランティア活動や学内外の行事等にも積極的にかかわり、また自己肯定感、自己有用感の高い学生が多いことが窺える。

しかしながら、以下 3 点、特に考慮すべき事項を指摘したい。

1 点目は、予習・復習など自宅における学修時間の短さである。楽器練習に時間をかけていると思われる音楽学部生及び短大音楽専攻生を除いて、学修時間が全国平均に届いていない。予習・復習すらしない学生が 3、4 割もあり、昨年度からほとんど改善されていない。

2 点目は、外国語コミュニケーションと数量的な分析について、入学後にそのような力が弱くなったと答えている者が多いことである。英語及び数学にもともと苦手意識のある学生が多いことが考えられるが、これも例年の傾向で変わらない。

3 点目は、読書時間の少なさである。この点は、全国的にも読書時間「0」の大学生が 5 割という現状からすると、本学学生が特に少ないというわけではない。しかし、大学生の学修行動として、このまま放置してよい問題ではない。

なお、調査項目等については年々改善が進み、本学学生の「学修行動」を調査する上で相当程度妥当な内容になってきたことを付しておきたい。

1. 調査の概要

(1) 調査時期 2019 年 9 月

(2) 調査対象

①所属別

学部学科\学年	1	2	3	4	計
音楽学部	45	34	21	25	125
食文化学部現代食文化学科	54	46	45	35	180
食文化学部栄養学科	78	49	81	83	291
子ども教育学部	118	131	115	119	483
短期大学音楽専攻	16	14			30
短期大学幼児教育専攻	24	23			47
計	335	297	262	262	1156

② 自宅／下宿の別

学部学科	自宅生	下宿生
音楽学部	58	67
食文化学部現代食文化学科	140	40
食文化学部栄養学科	204	87
子ども教育学部	362	121
短期大学音楽専攻	14	16
短期大学幼児教育専攻	39	8
計	817	339

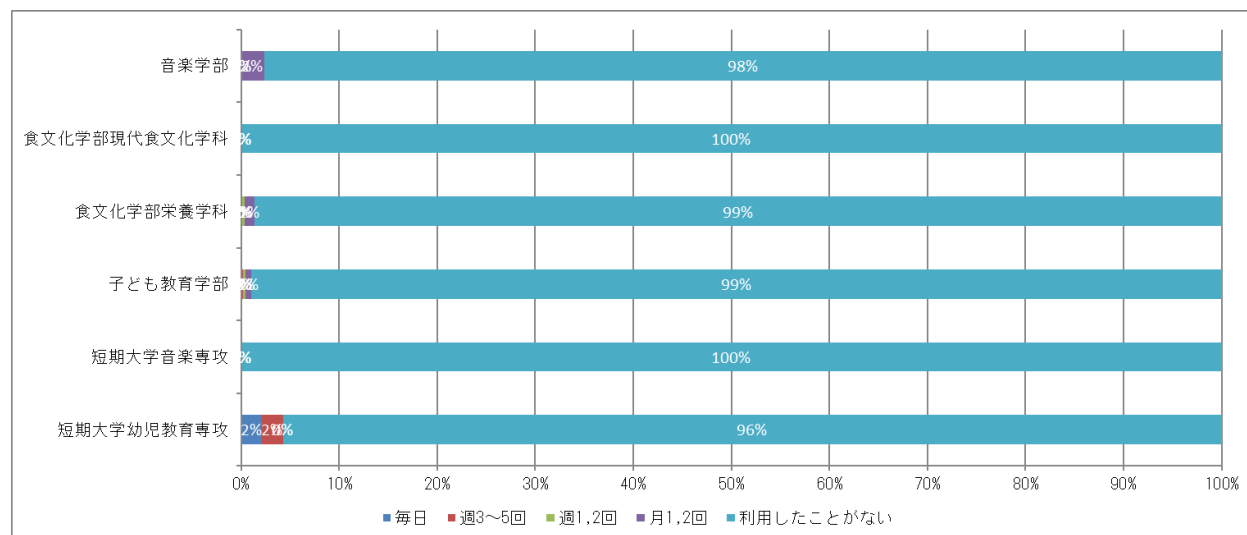
③ 通学時間の別

学部学科	30分未満	30分～1時間	1時間～2時間	2時間以上
音楽学部	71	22	27	5
食文化学部現代食文化学科	49	64	62	4
食文化学部栄養学科	113	76	85	17
子ども教育学部	172	136	152	23
短期大学音楽専攻	17	5	7	1
短期大学幼児教育専攻	15	14	15	3
計	437	317	348	53

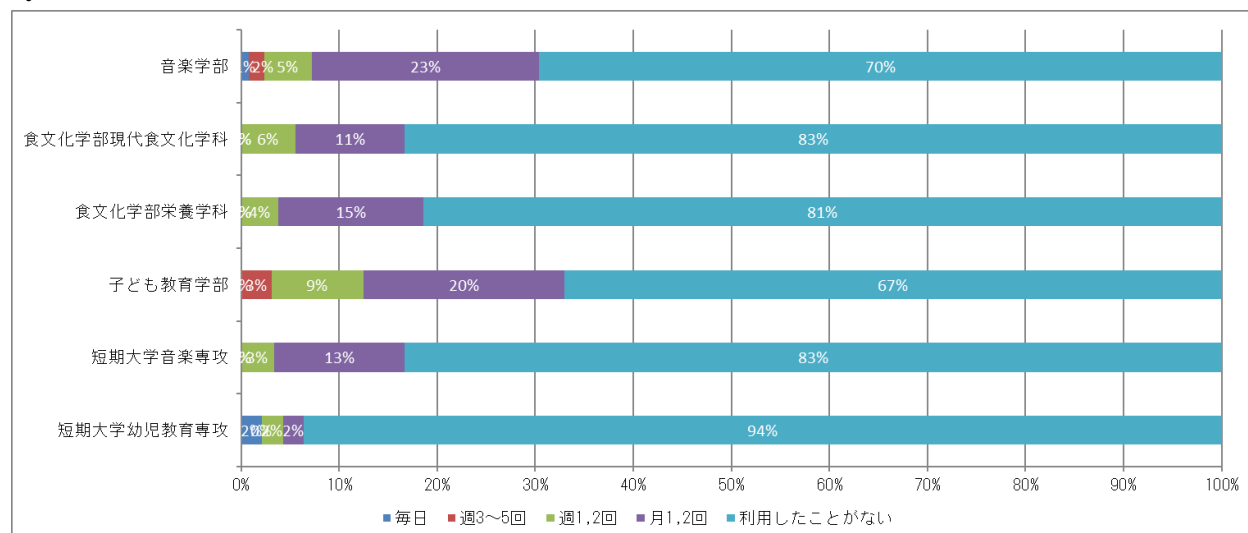
母集団に大きな偏りは見られないが、音楽学部生及び短大音楽専攻生は他県からの学生が多いため下宿生の比率が高く、これが学修行動に影響を与えていることが考えられる。

2. 調査結果

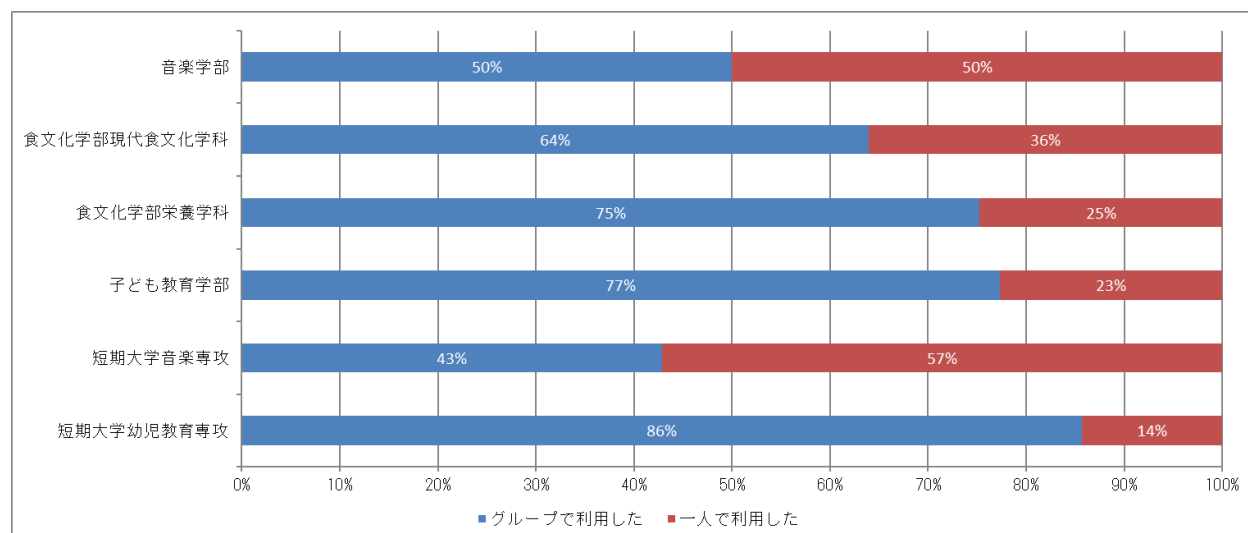
Q4-1 あなたは5号館302室のアクティブ・スタディ・ベース（ASB）を授業時間外にどの程度利用していますか。



Q4-2 あなたは図書館のラーニング・コモンズを授業時間外にどの程度利用していますか。



Q4-3 ASB またはラーニング・コモンズを利用した人にお聞きします。どのように利用しましたか。

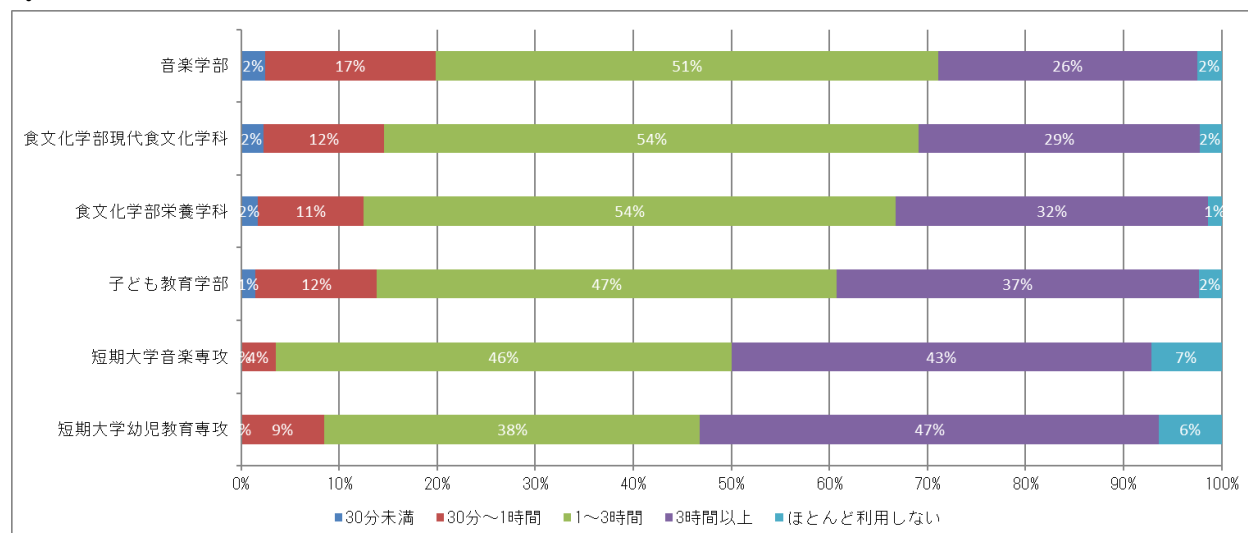


Q4 について

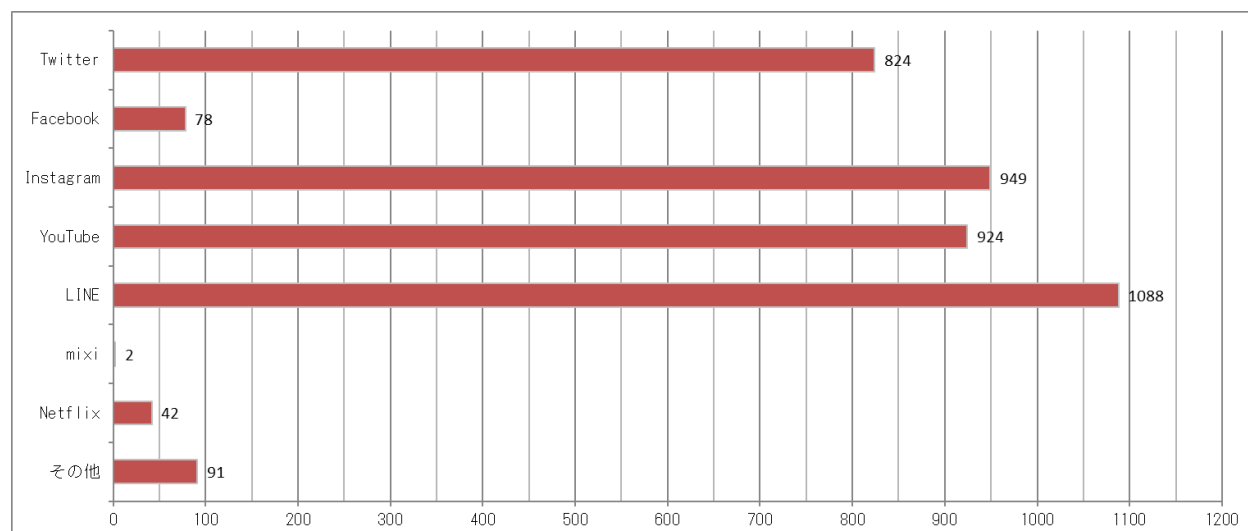
ASB については、例年は 10%程度の学生が利用しており、特に、現代食文化学科では昨年度 20%程度の学生が利用していたが、今年度は全学部でほとんど利用されていない。新型コロナウイルスの影響で、グループワークやアクティブ・ラーニング型の演習が実施困難であったためと思われる。

ラーニング・コモンズについても同様に利用率が低い。また、音楽学部及び短大音楽専攻では 1 人での利用（ラーニング・コモンズと思われる）が過半数を占めており、本来の使用目的と馴染んでいない。

Q5-1 あなたは、SNS等を1日あたり平均どれくらいの時間利用しますか。



Q5-2 SNS等を利用している人にお聞きします。どのような種類のSNSを利用していますか。当てはまるすべての数字に○をしてください。



Q5について

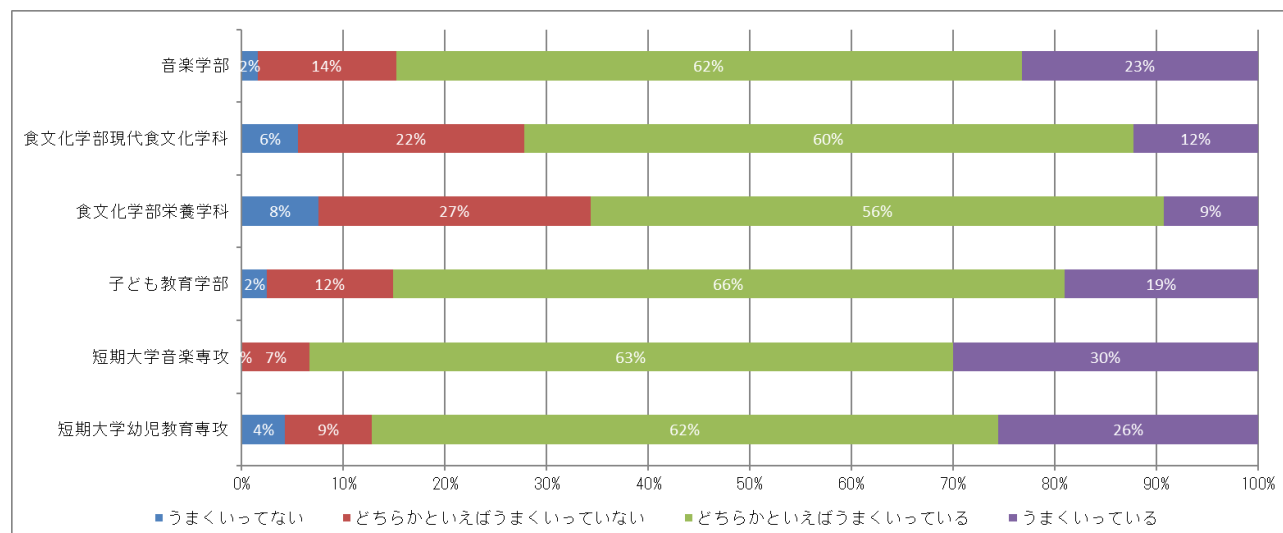
総務省情報通信政策研究所による同様の全国調査（2019）によると、1日当たりのSNS利用時間は10代で71.6分、20代で51.9分である。これから考えると、本学学生のSNS利用時間はかなり長いように思われる。しかし、この総務省調査では、SNS利用時間と、メールにかかる時間、動画等の視聴時間、オンラインゲームの利用時間などを区別して調査しており、本学のこの調査では、学生がSNS利用時間だけでなく、「スマートフォンを見ている時間」をトータルして答えている可能性も否定できない。総務省の調査においても、インターネットの利用時間を合計すると、10代で207.3分、20代で176.3分となり、本学の調査結果と同程度となる。

ソーシャルメディア系サービスの利用状況においては、LINE、Twitter、Instagramが主流である。これも総務省調査と同様の傾向である。30代以降で利用率の高いFacebookがあまり利用されていない点も同様である。

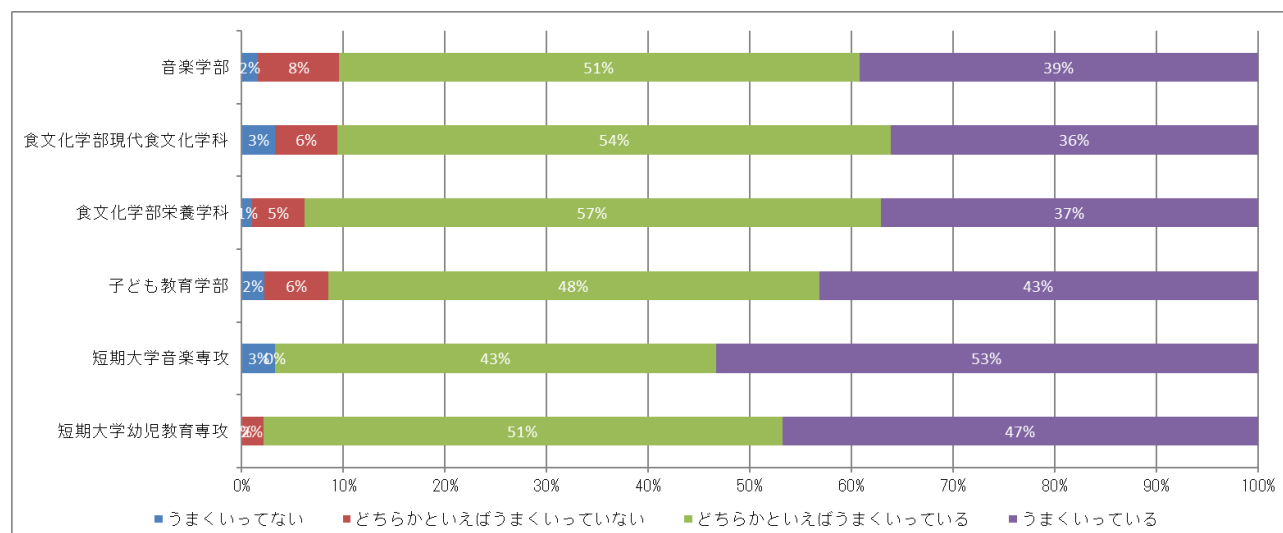
従来のテレビ放送視聴時間よりもインターネット利用時間のほうが長くなっている世代である。YouTubeやNetflixのような動画配信サイトの利用は、従来のテレビ視聴にかわるものと考えられ、SNSと同列に並べるのは合理的ではない。

Q6 あなたの大学生活は、うまくいっていますか。

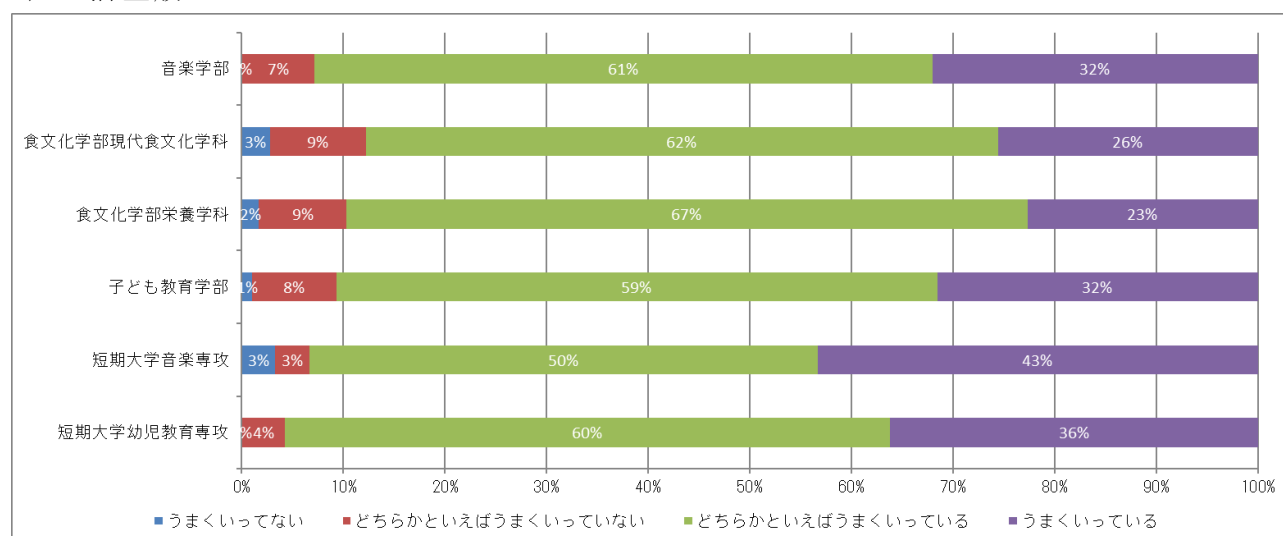
1) 学習面



2) 対人関係

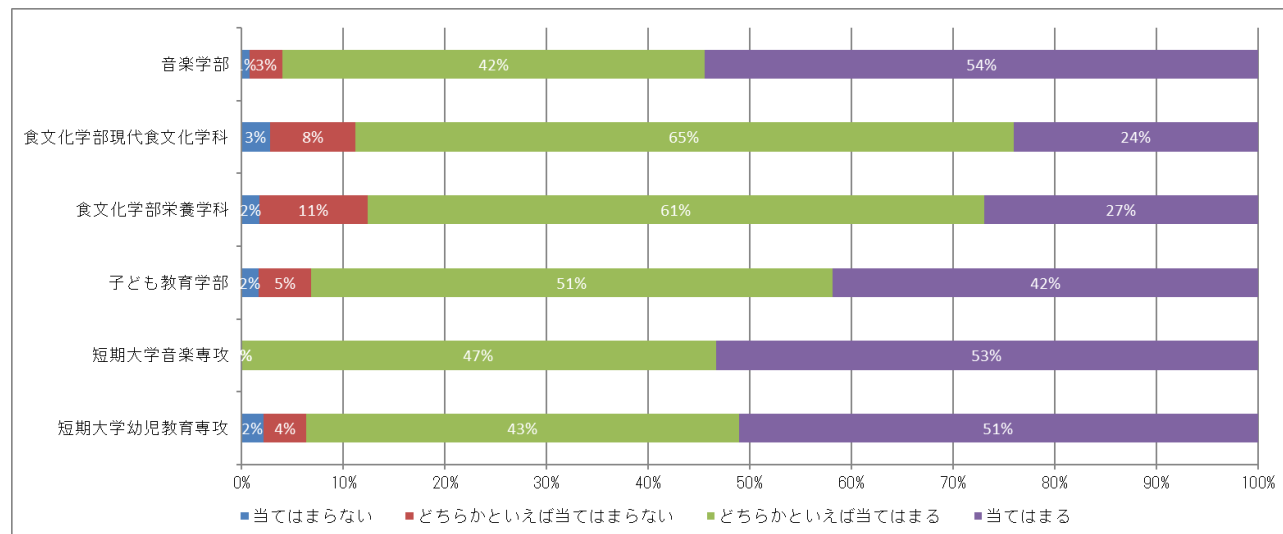


3) 生活全般

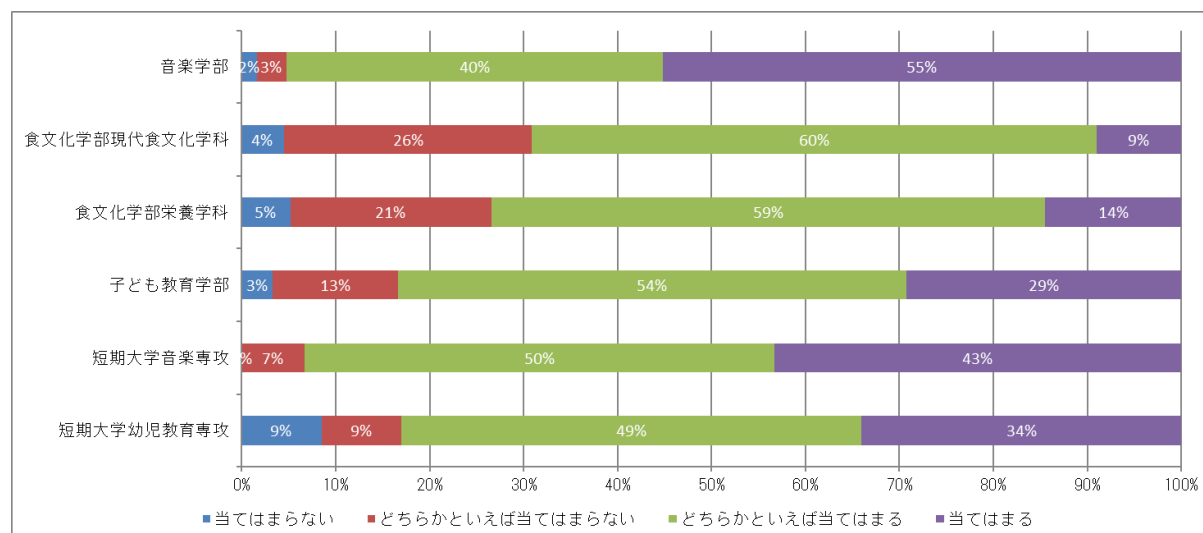


Q7 次のことは、あなたにどの程度当てはまりますか。

1) 学科・専攻の学びは、自分の興味・関心に合っている



2) 講義を受けたい教員が学科・専攻にいる

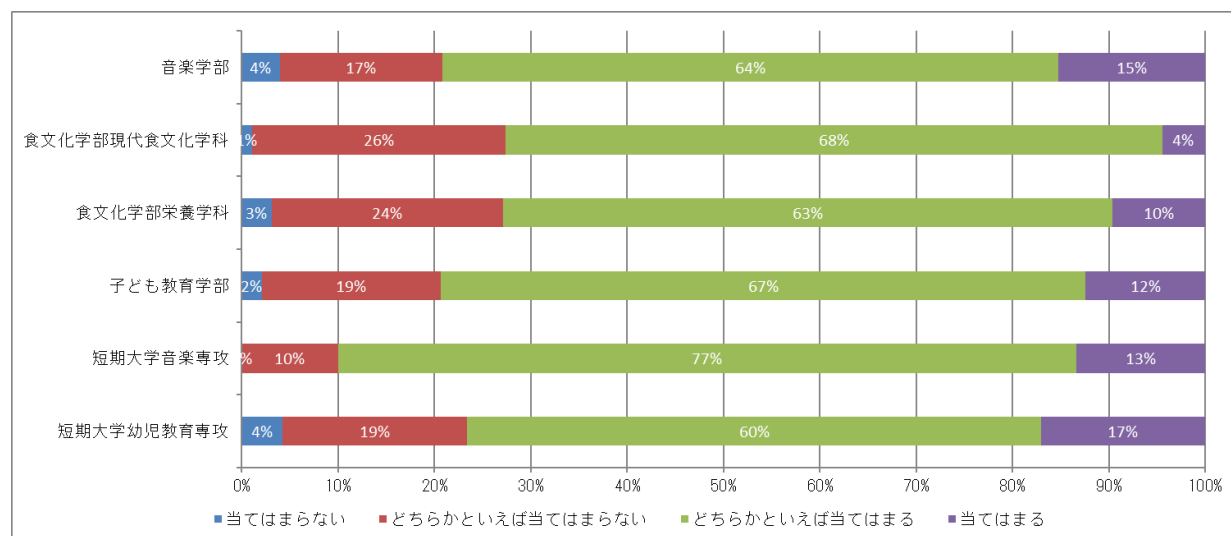


Q7 について

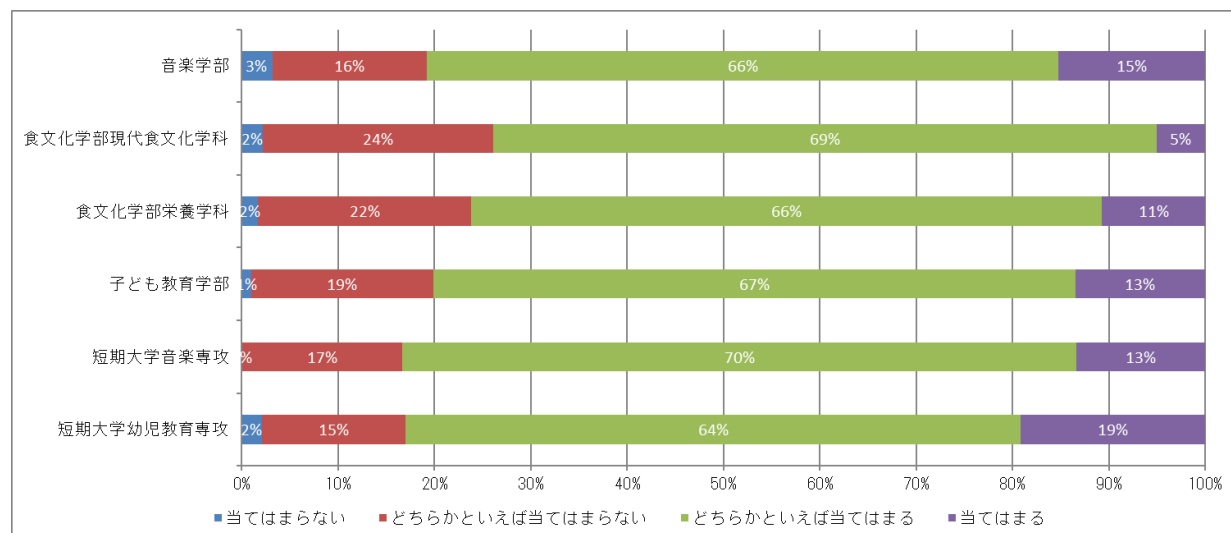
食文化学部における評価が低く、音楽学部及び短大音楽専攻における評価が高い。これは一昨年、昨年と同じ傾向である。昨年に比べて、子ども教育学部及び短大幼児教育専攻における評価は改善している。

Q8 あなたの普段の意識や体調についてお聞きします。次のことは、あなたにどの程度当てはまりますか

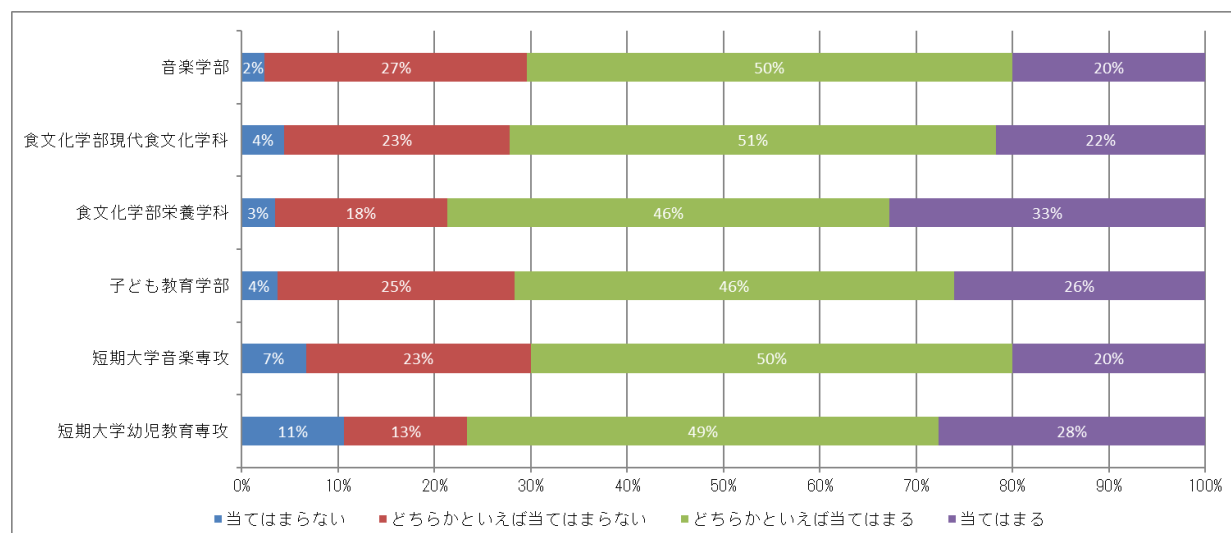
1) 自分は必要とされている存在である



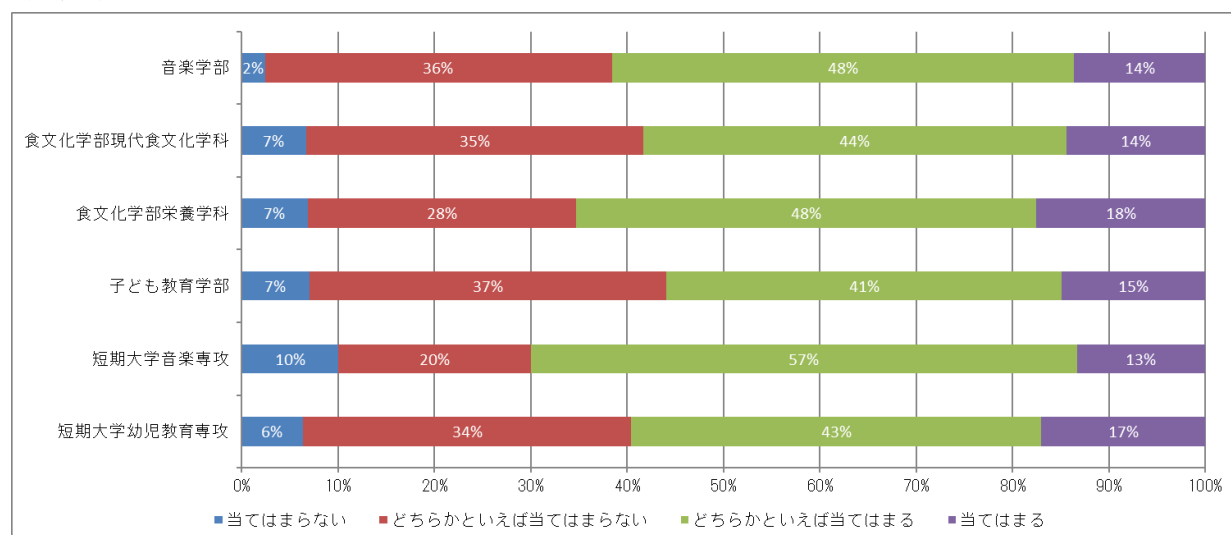
2) 自分は人の役に立つことができる



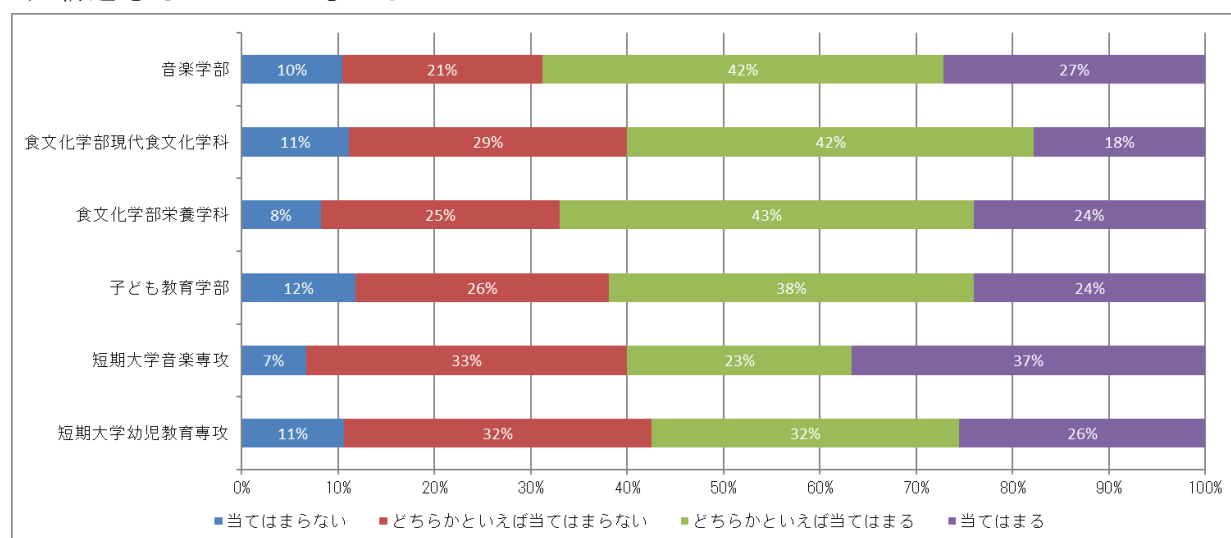
3) 物事の取りかかりが遅い



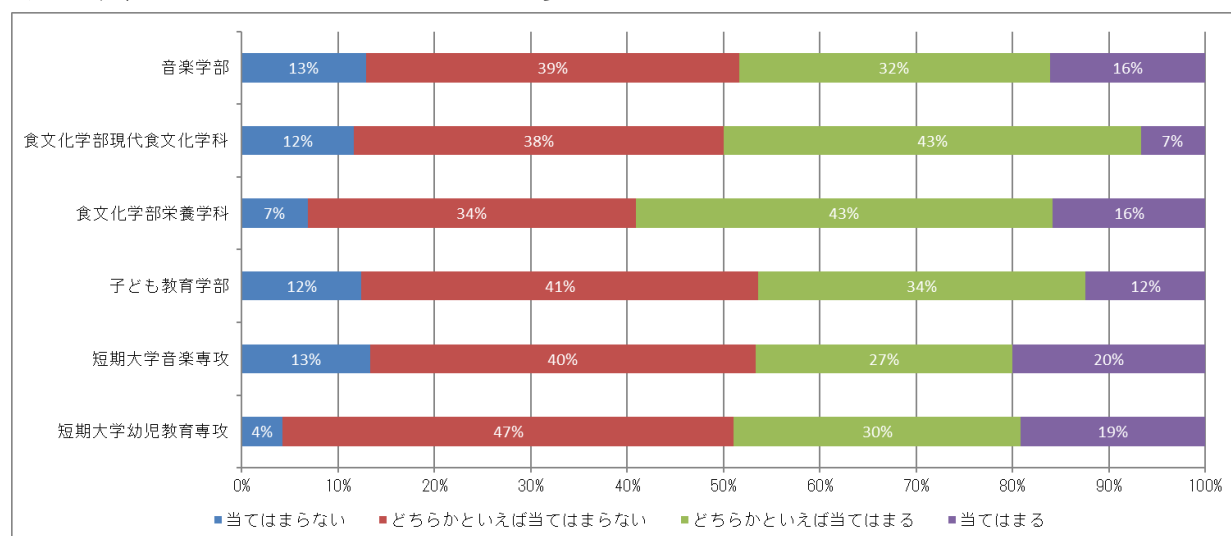
4) 物事をてきぱきとこなせない



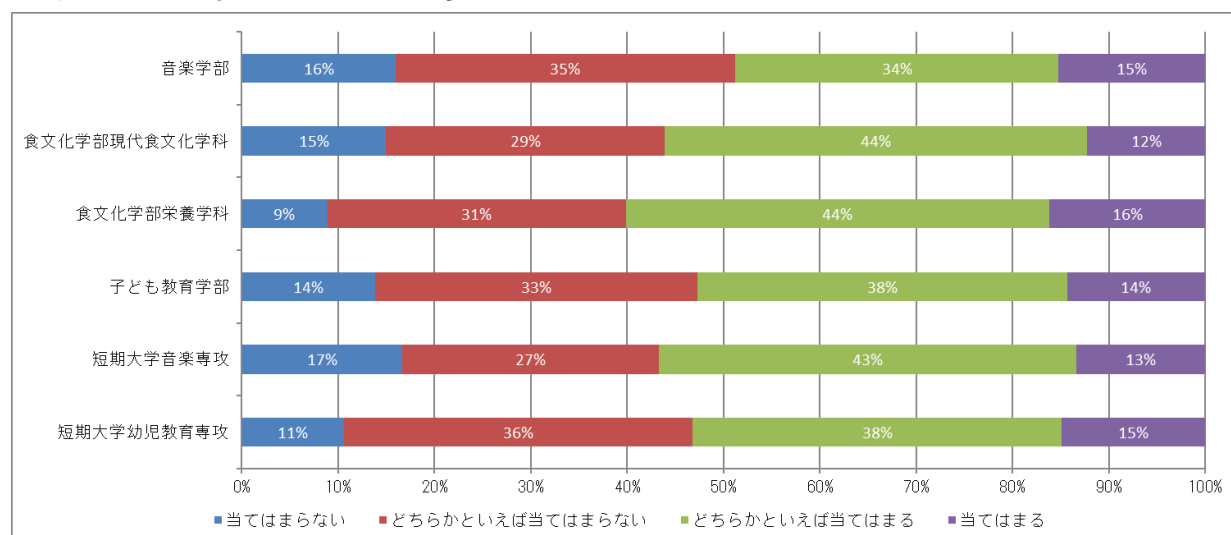
5) 朝起きるのがとてもつらい



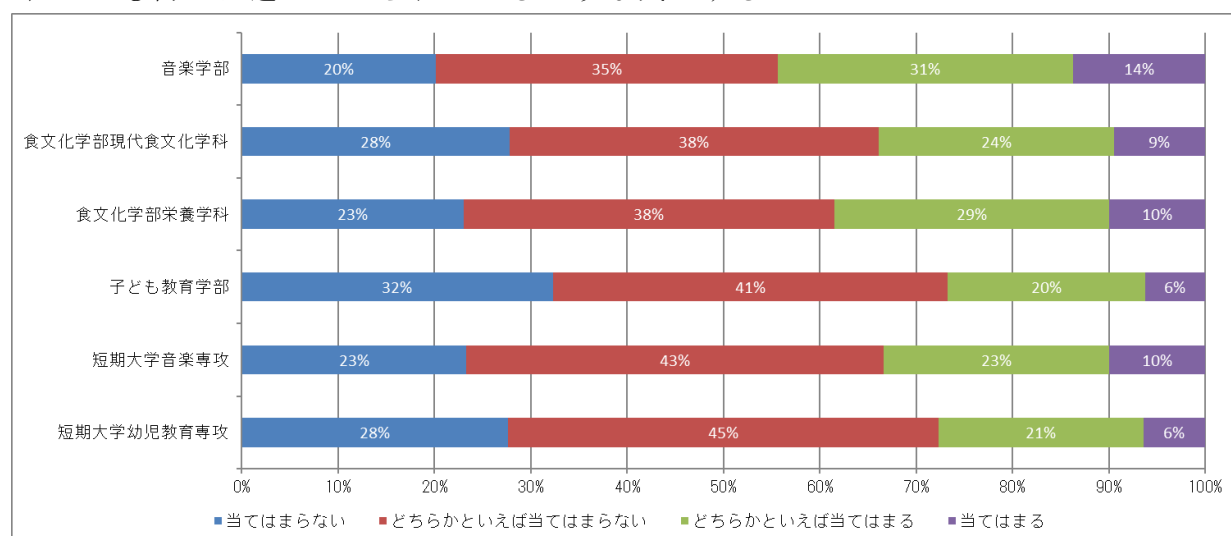
6) 日中、眠くてしかたがないことが多い



7) 何となく不安になることが多い



8) いつも何かに追い立てられているような気がする



Q8 について

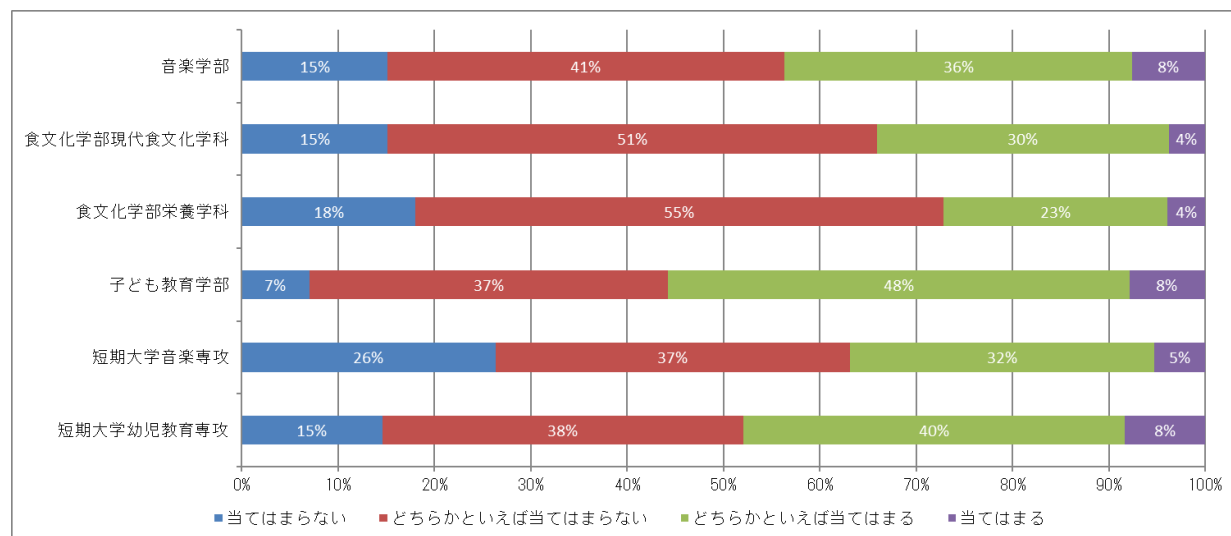
これらの調査項目についても一昨年、昨年とほぼ同じ傾向であり、部局間に明確な相違は見られない。

「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」(2019年6月内閣府)によると、「自分自身に満足しているか」の質問に対して「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した者が45.1%、「自分は役に立たないと強く感じるか」の質問に対して「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した者が51.7%である。それらと比較すると、「1) 自分は必要とされている存在である」や「2) 自分は人の役に立つことができる」に対する回答からは、本学学生は比較的自己肯定感が高いことが窺える。

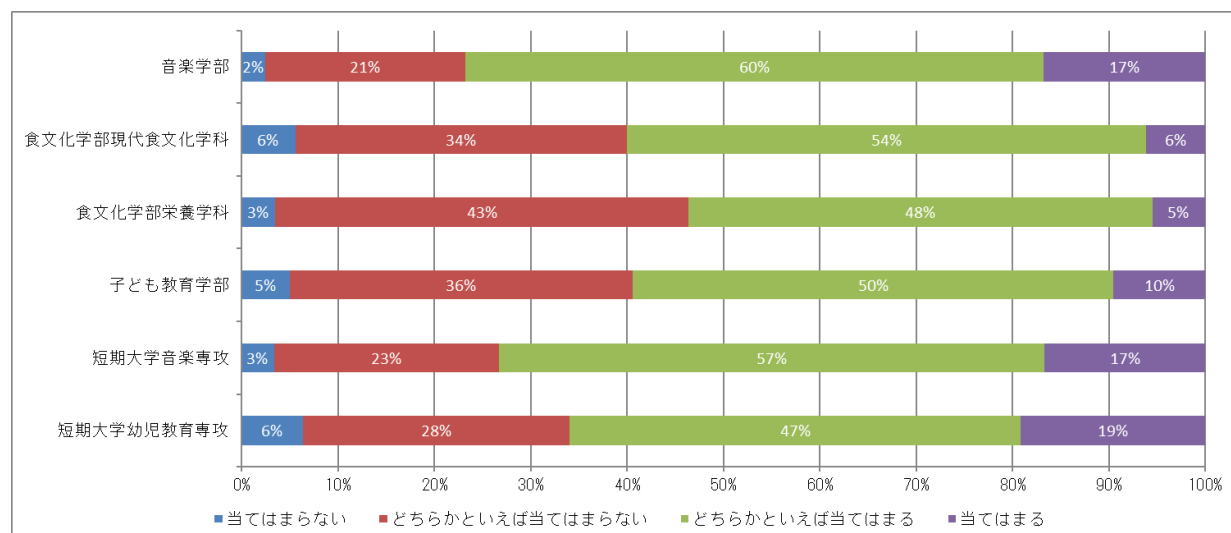
「5) 朝起きるのがとてもつらい」及び「6) 日中、眠くてしかたがないことが多い」に対する回答からは、睡眠時間を含めた生活状況についてさらに調査する必要がある。

Q9 あなたの普段の意識や行動についてお聞きます。

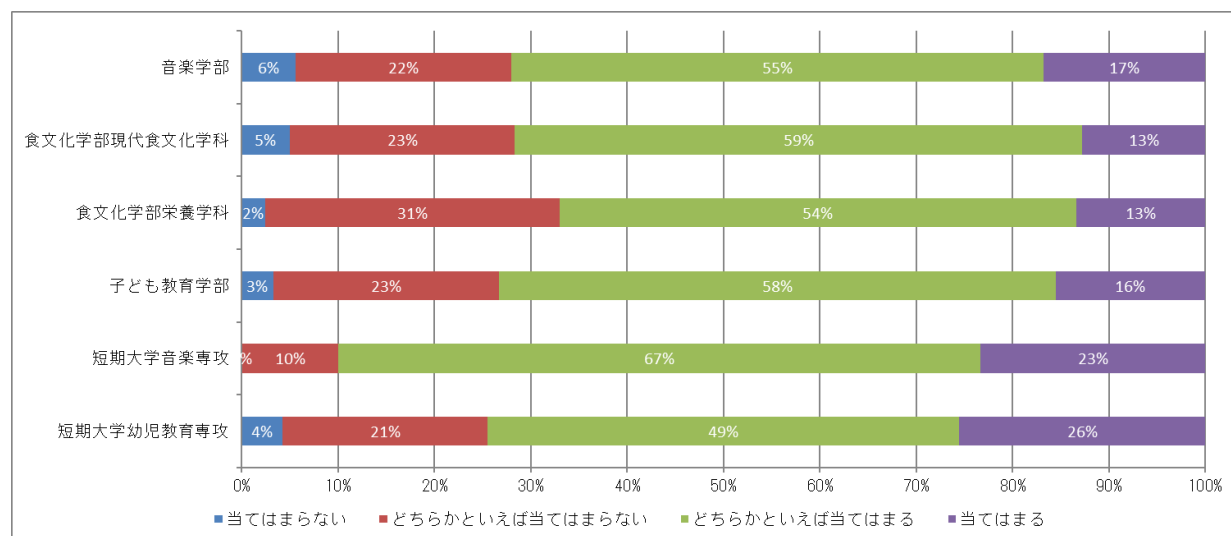
1) 学内外の行事など、様々な活動に積極的に参加する方だ



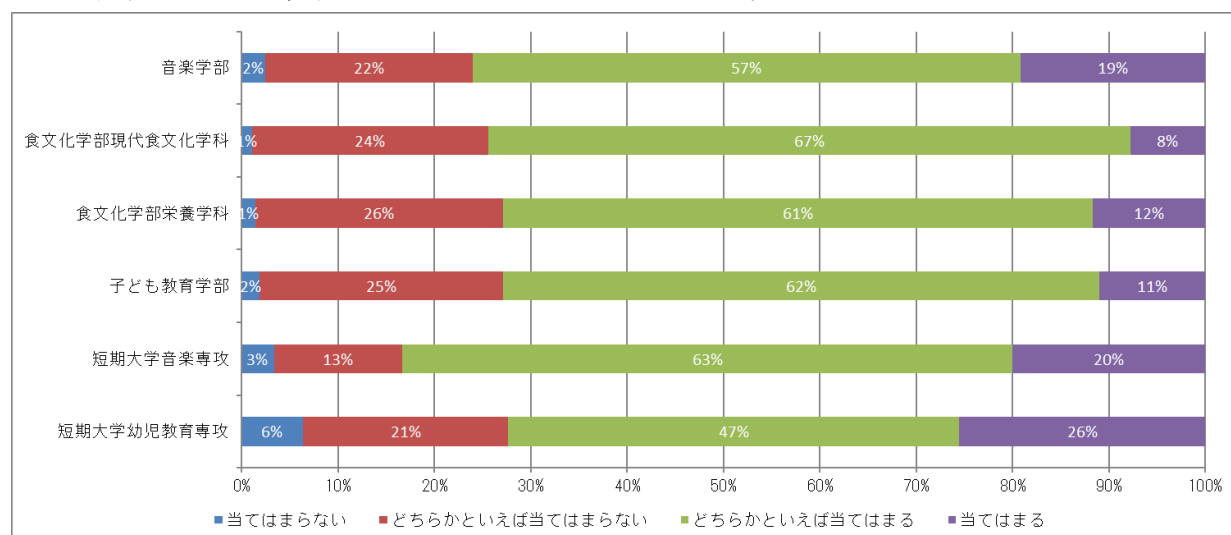
2) 課題の完成や試験準備には十分な時間と労力をかける方だ



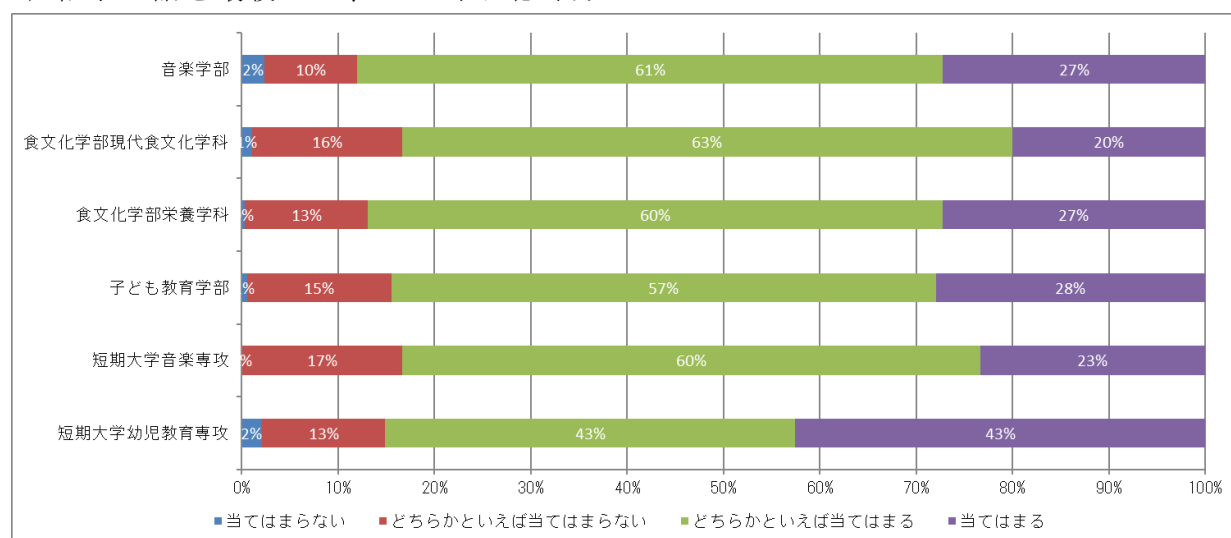
3) いやなことがあっても、気持ちを切り替えて、やろうとしていることに取り掛かれる方だ



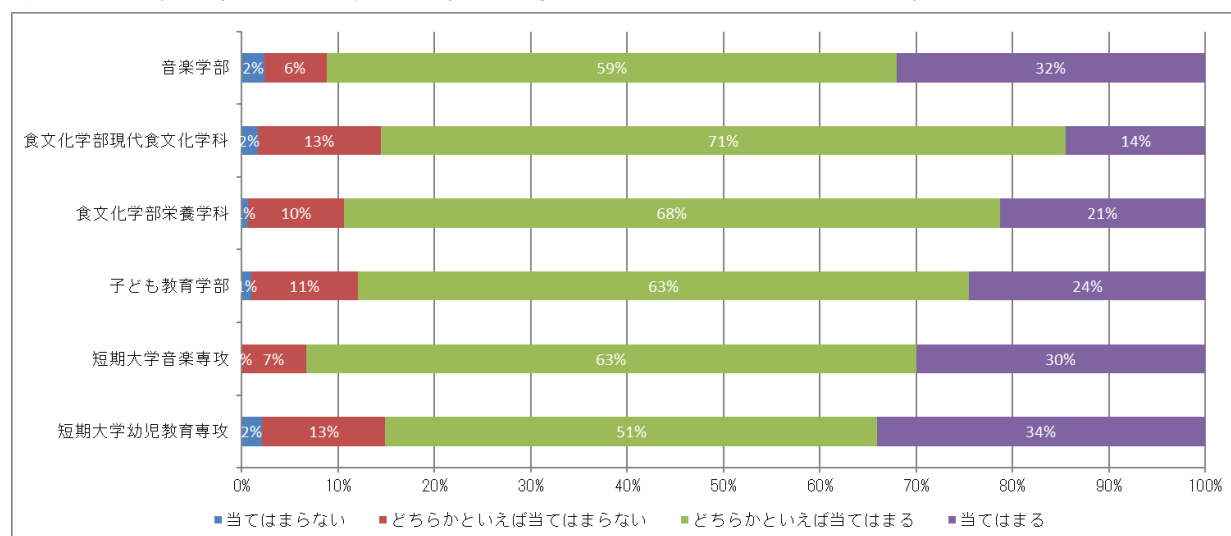
4) 活動するときは、何のためにそれをやるのかを考える方だ



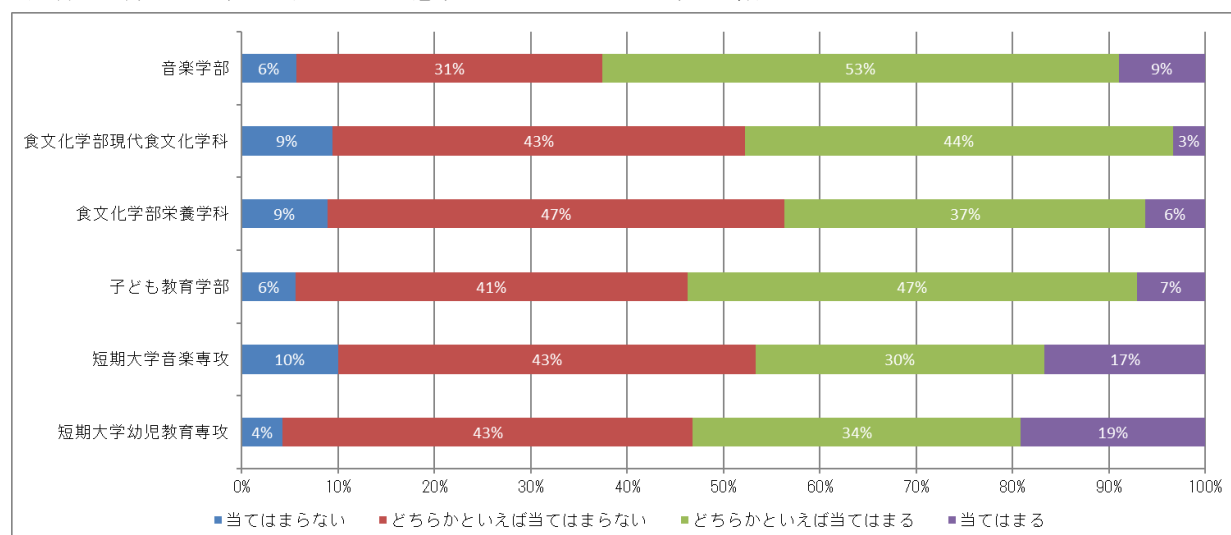
5) 相手の話を最後まで、じっくり聴く方だ



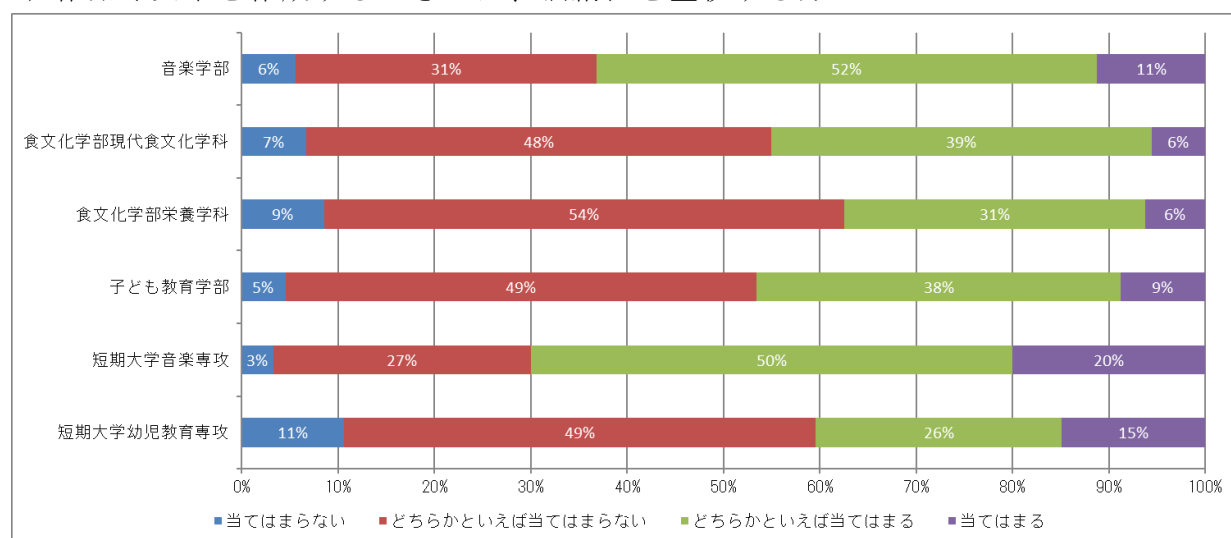
6) どのような言い方をすれば相手に受け入れてもらえるかを考える方だ



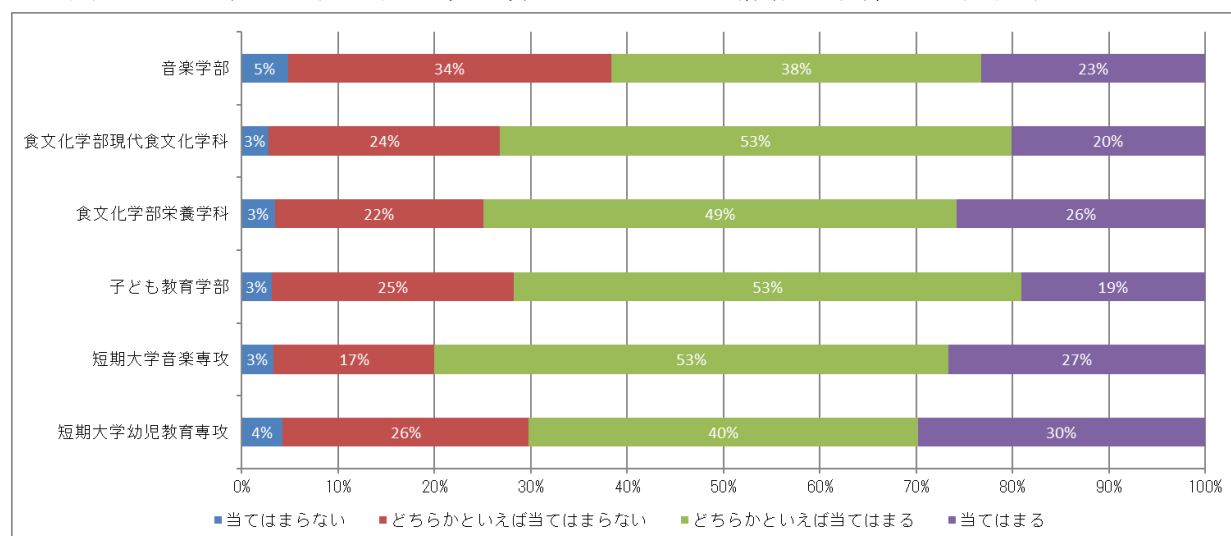
7) 話し合いの場でみんなの意見をまとめるように働きかける方だ



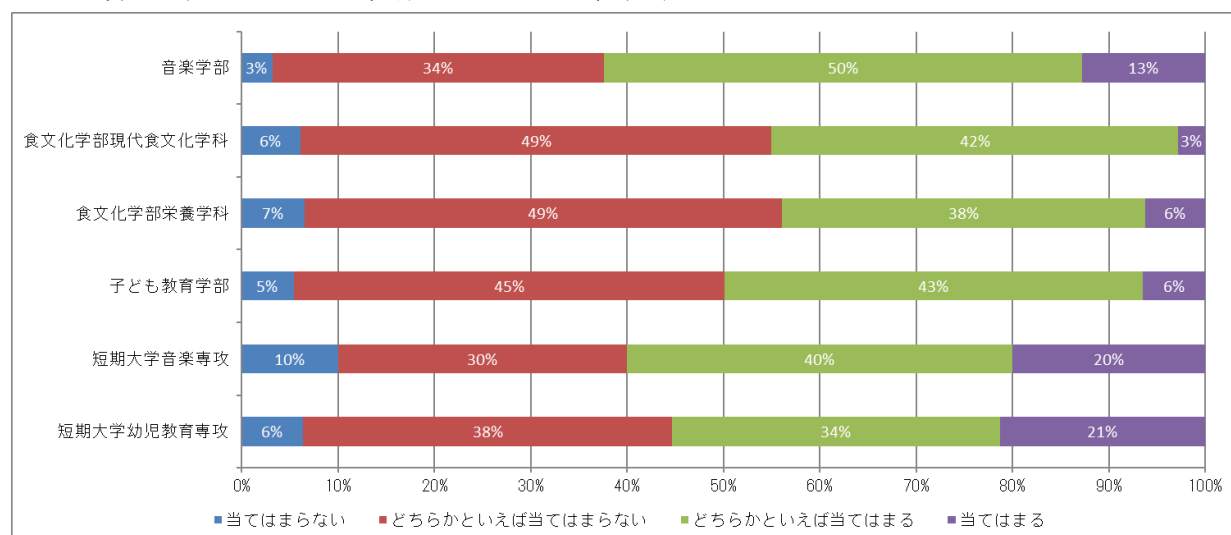
8) 作品や文章を作成するときには、独創性を重視する方だ



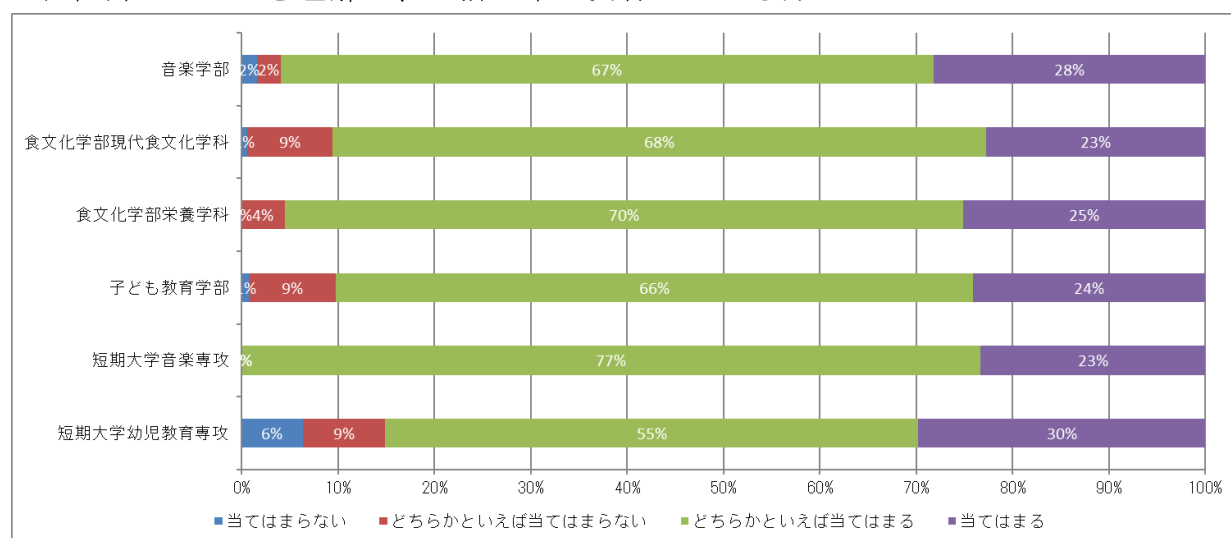
9) 旅行やレジャーに行く前に、自分でいろいろな情報を収集して計画する方だ



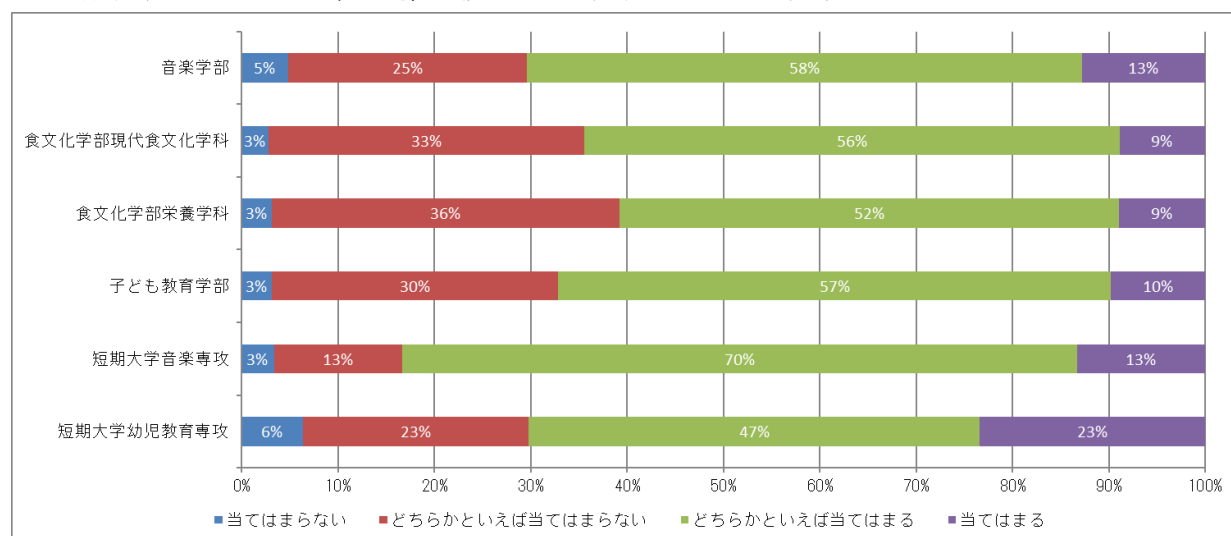
10) 自分が考えたことを、筋道をたてて、他者に説明できる方だ



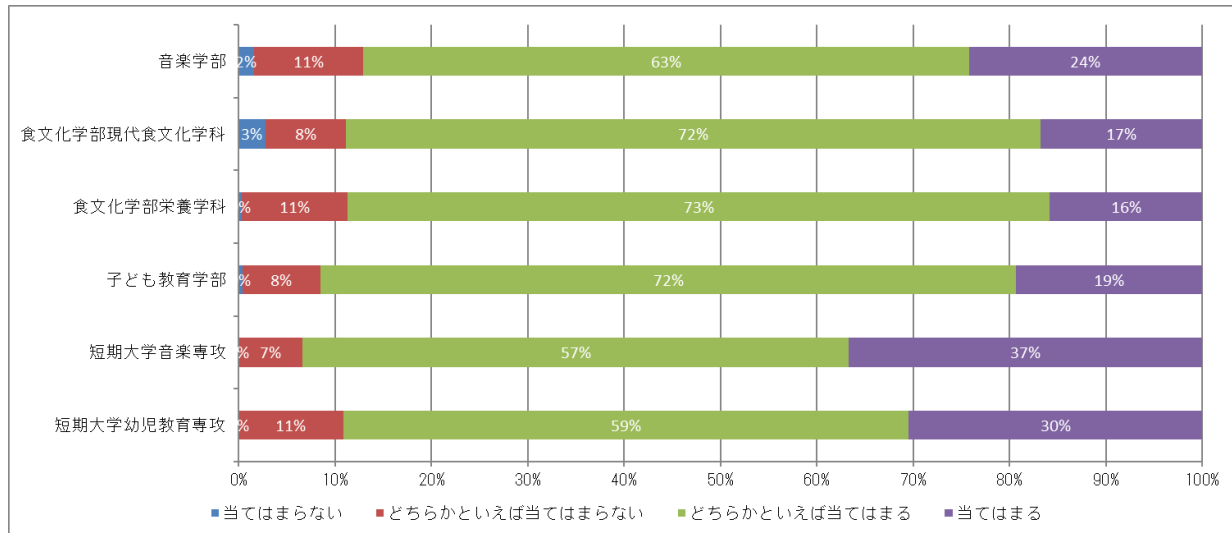
11) 社会のマナーを理解し、生活の中で実行している方だ



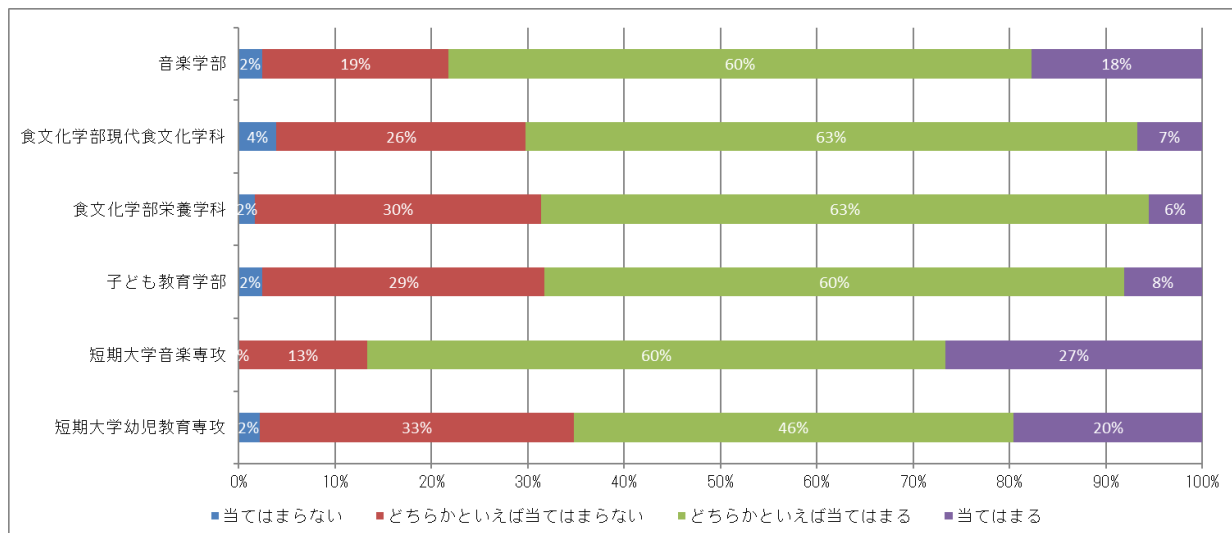
12) 活動するときには、目標を設定して計画通りに実行する方だ



13) 周囲の人々や物事の間を関係する方だ



14) 活動をするときは現状を分析し、課題を明らかにする方だ



Q9 について

これらの項目についても一昨年、昨年とほぼ同じ傾向が見られ、短大2専攻において比較的ポジティブな回答が目につくが、部局間に大きな差異はない。

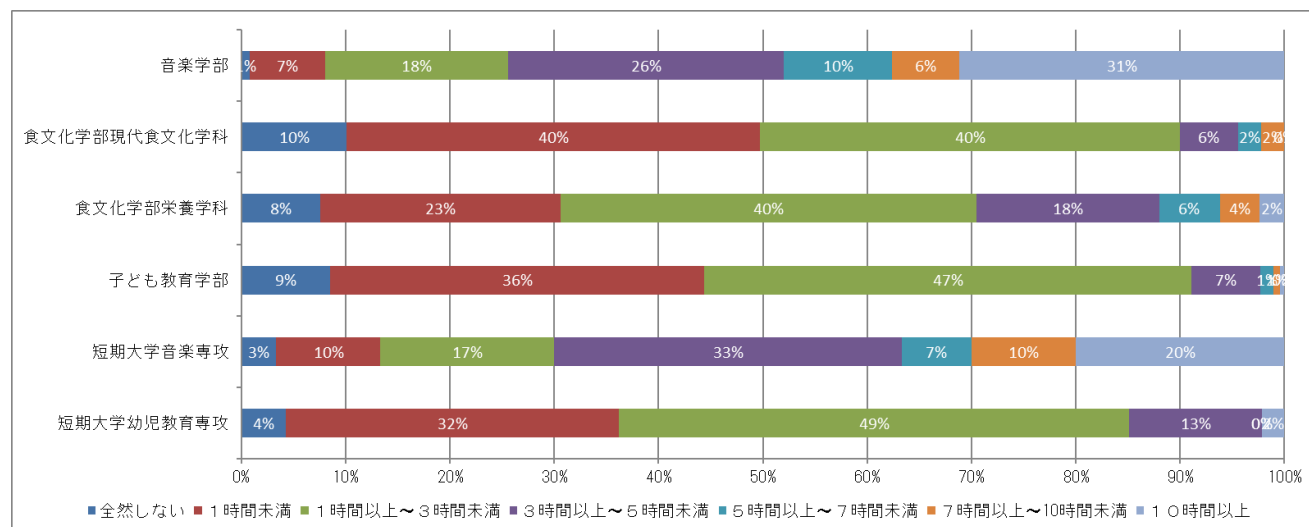
「1)学内外の行事への参加率」は子ども教育学部と短大幼児教育専攻において高く、「8)独創性の重視」に関しては音楽学部及び短大音楽専攻において肯定率が高い。

「11)社会のマナーの理解と実践」について、現代食文化学科と子ども教育学部の学生の10%、短大幼児教育専攻生の15%がネガティブな回答をしている点は気になる。

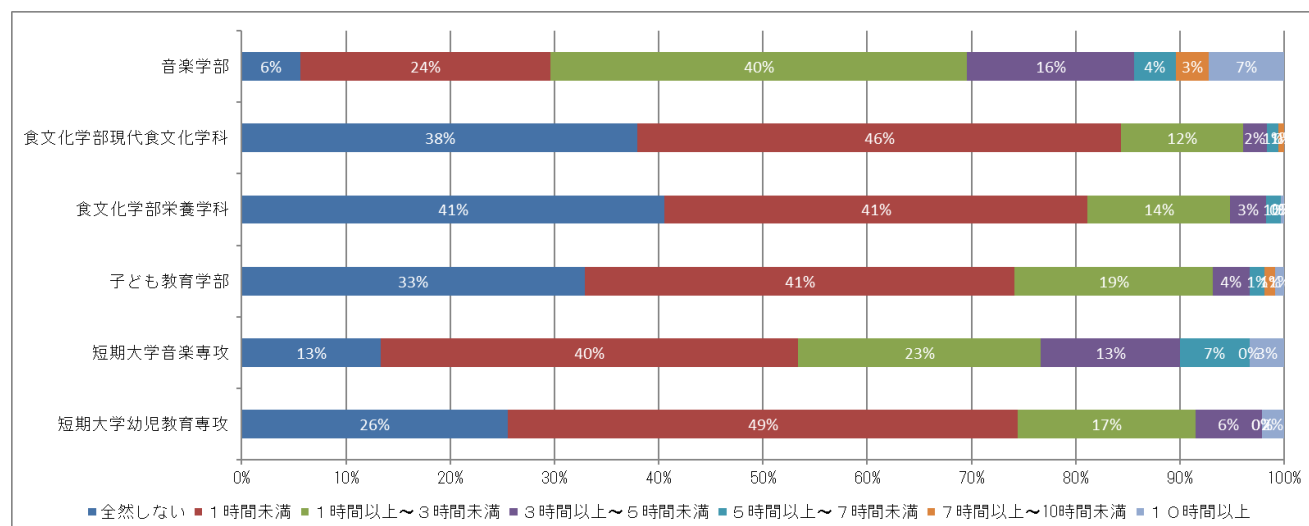
14の質問項目があるが、学修行動に関する質問と、学生の心理的な側面を聞いている質問があり、当調査の目的から考えると整理が必要である。

Q10 あなたは現在、次の活動に1週間あたり平均どのくらいの時間を費やしていますか。

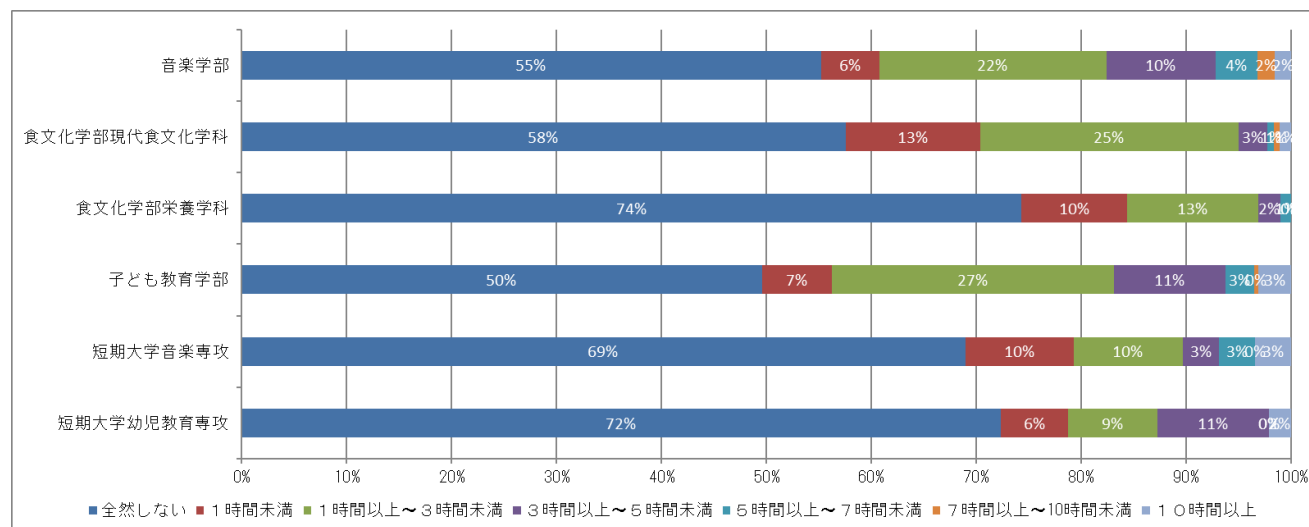
1) 授業（レッスン）時間外に、授業（レッスン）課題や準備学習、復習をする



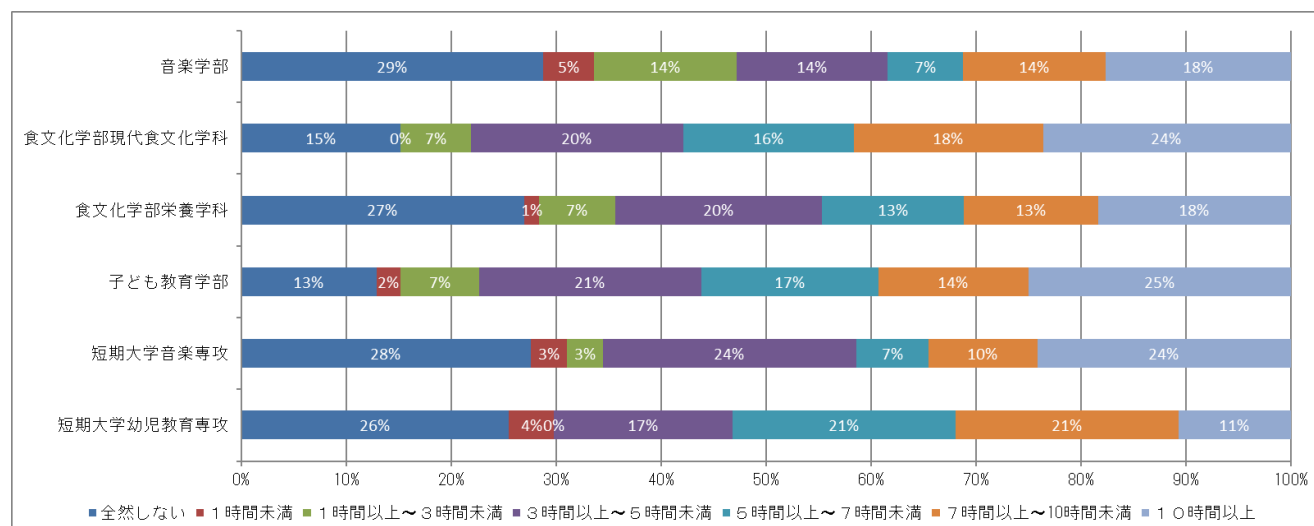
2) 授業（レッスン）時間外に、授業（レッスン）に関連しない学習をする



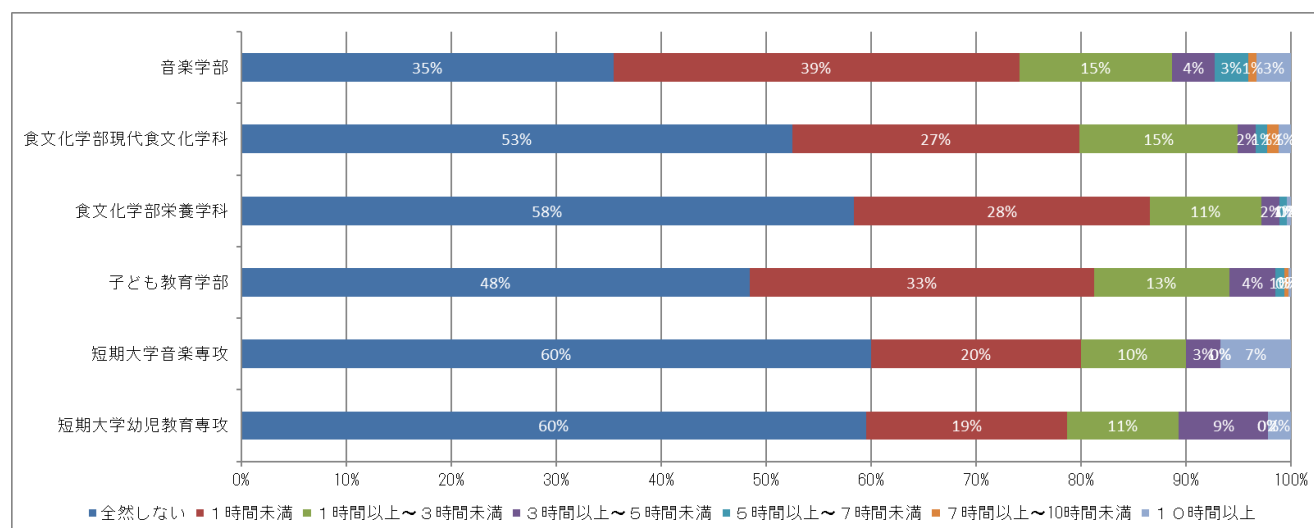
3) 部活動や同好会、サークルに参加する



4) 大学外でアルバイトや仕事をする



5) 読書をする（マンガ・雑誌を除く）



Q10 について

授業・レッスンに関連する学修時間については、全国大学生生活協同組合連合会が実施した「第55回学生生活実態調査」（2019）によると、予習復習などの時間は1日平均48.2分であり、これに5をかけて60で割ると、週当たり約4時間となる。本学学生の学修時間は、おそらく楽器の練習に時間をかけていると思われる音楽学部生及び短大音楽専攻生を除くと全国平均に届いていない。

授業・レッスンに関連しない学修時間については、生協の調査では1日平均24.7分であり、週当たり約2時間となる。こちらも、本学学生の学修時間は、音楽学部生を除いて全国平均以下である。

食文化学部及び子ども教育学部においては、約1割の学生が授業の予習復習すら全くしていない。これも昨年と同様な結果であり、改善されていない。

部活動やサークル活動への参加は全部局で低調であり、過半数の学生が参加していない。栄養学科及び短大2専攻の学生は約7割が参加していない。

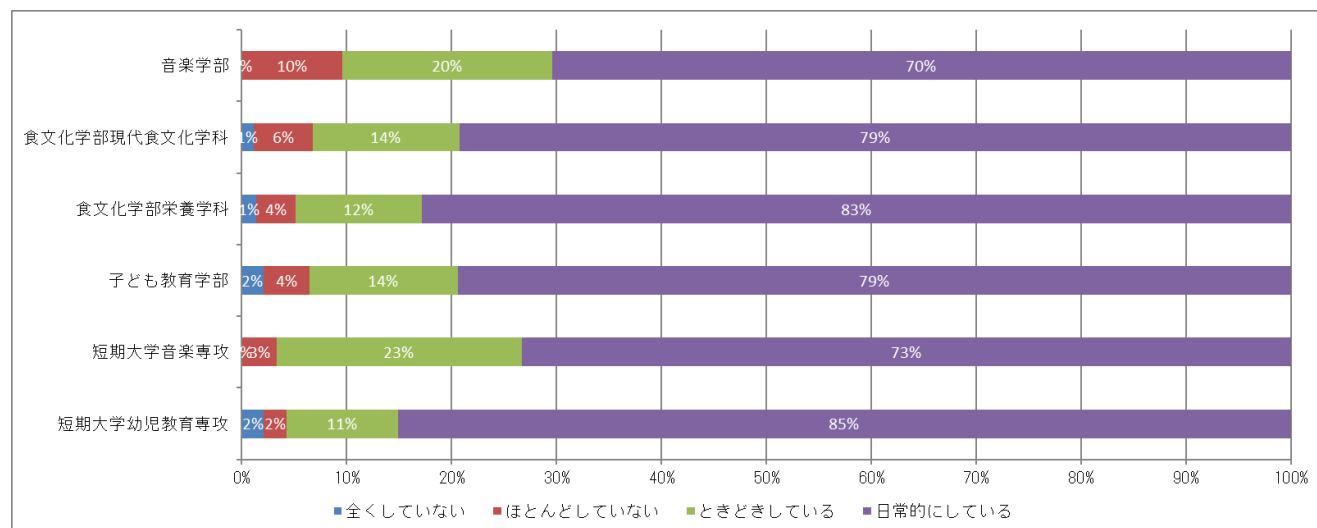
読書時間については、生協の調査では大学生全体の約5割が1日の読書時間「0分」であり、本学調査とはほぼ同様な傾向である。決して良いことではないが、全国平均と比べて本学の学生が特に読書時間が少ないわけではない。

なお、本学調査では「マンガ・雑誌を除く」としているが、生協調査では自ら「読書だと思

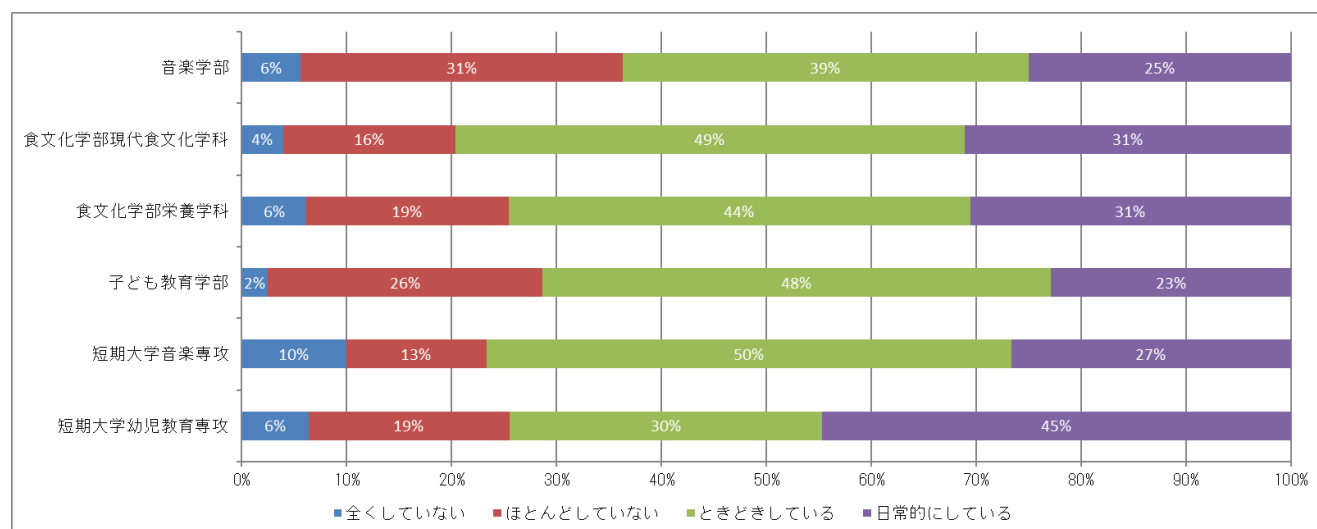
う」ものを聞いており、その「読書」の対象を「書籍のみ」と考えているのは全体の約 5 割にとどまる。さらに、その「読書」の対象は大半が趣味等に関わる書籍である。近年はインターネット上での書籍類の閲覧も普及しており、「マンガ・雑誌を除く」ことの必然性も含めて、調査項目を少し検討すべきではないかと考える。

Q11 あなたは大学入学以来、次の学修活動をどれくらいしていますか。

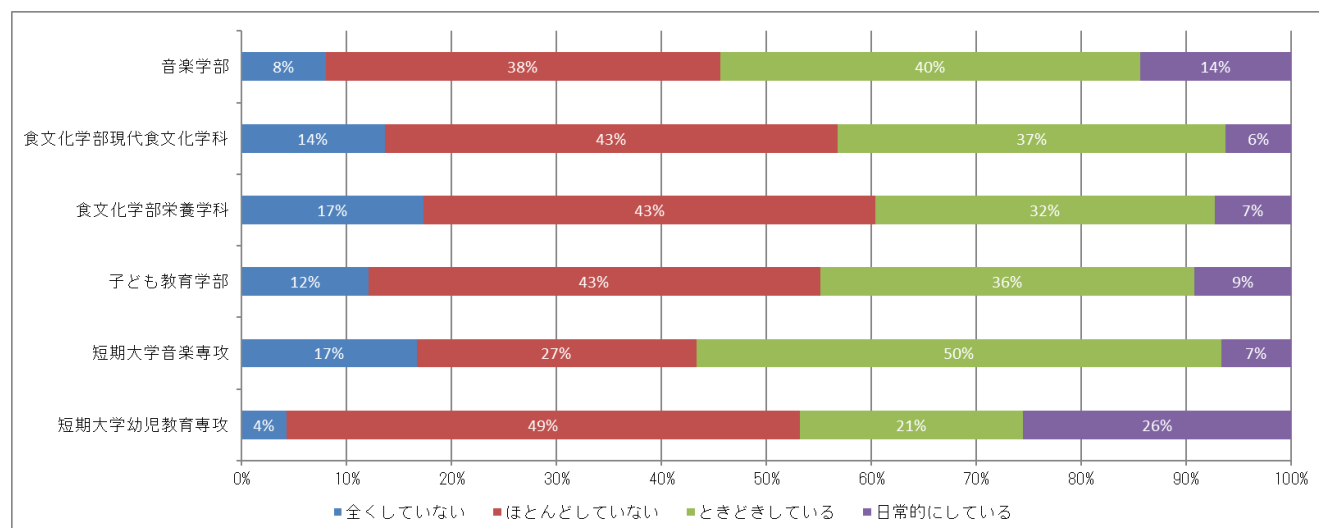
1) 正当な理由による欠席を別にすれば、授業には出席している



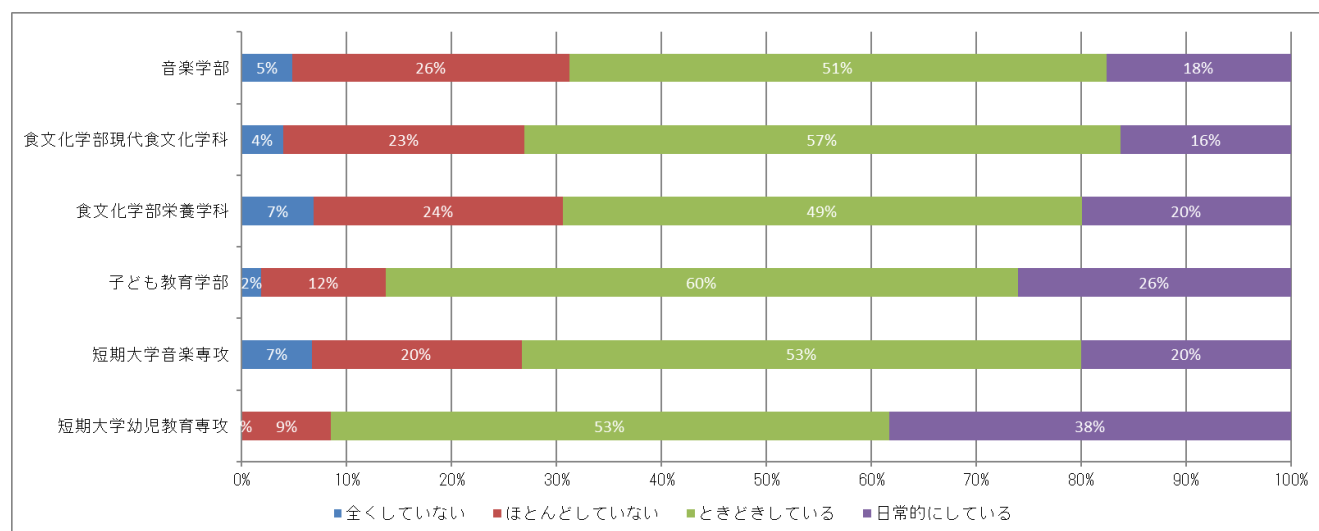
2) 実験、実習、フィールドワークなどを実施し、体験的に学ぶ



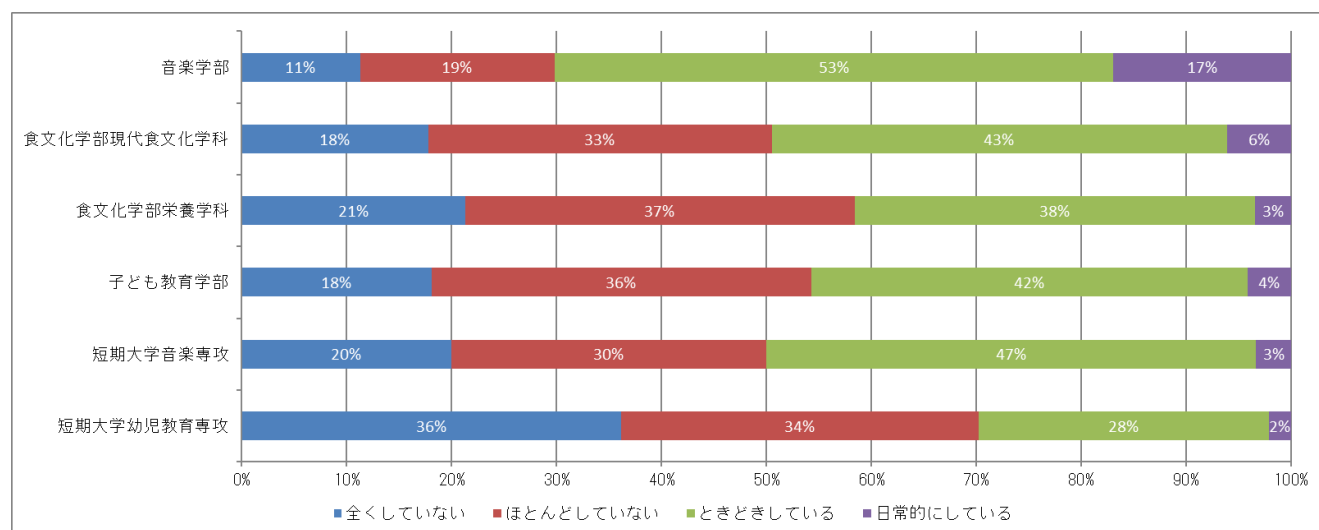
3) 自分の考えや研究成果を発表する



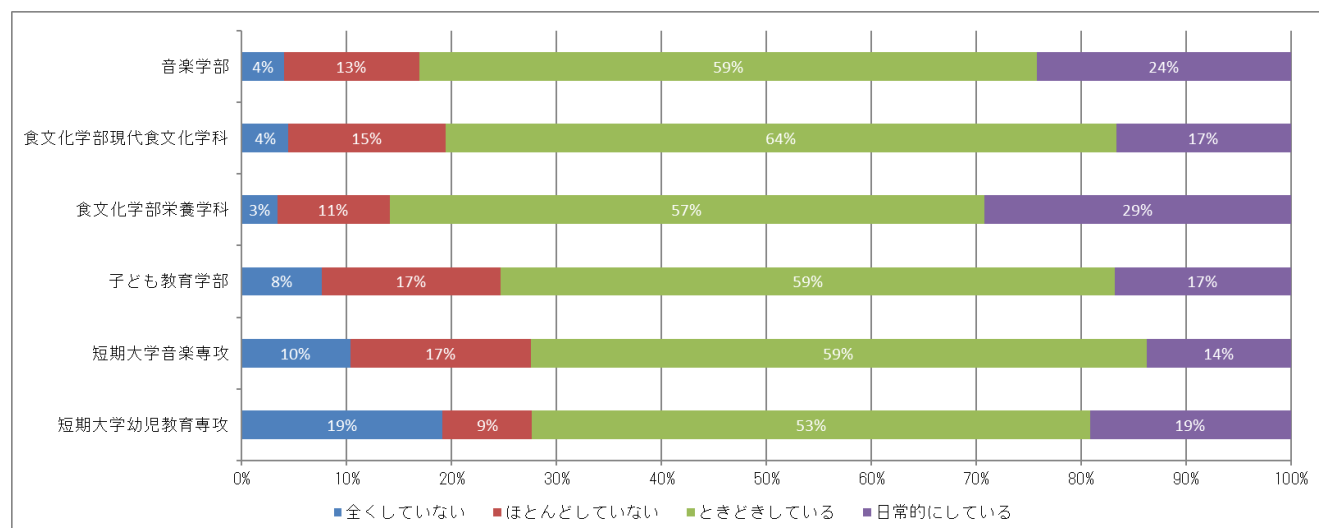
4) 授業中に学生同士でグループワークをする



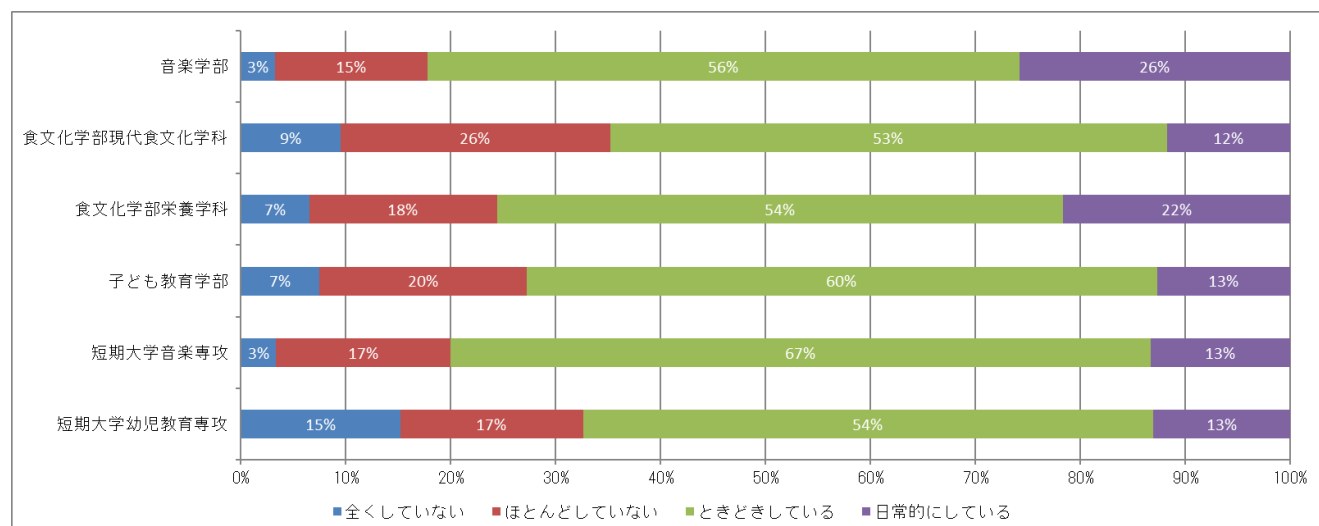
5) 授業（レッスン）課題のために図書館の資料を利用する



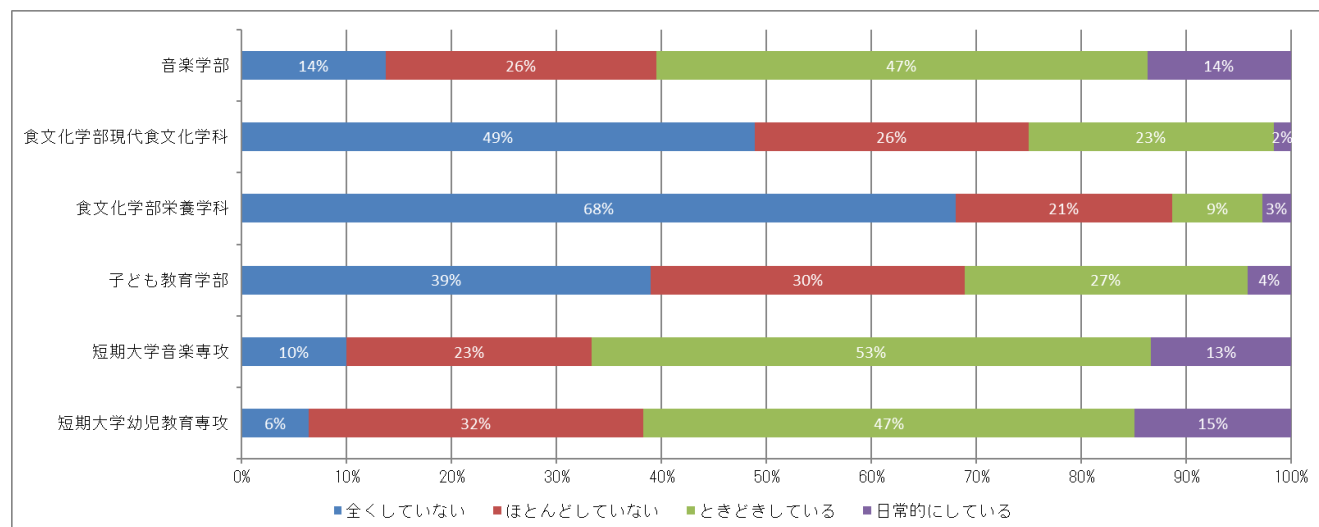
6) 授業（レッスン）課題のために web 上の情報を利用する



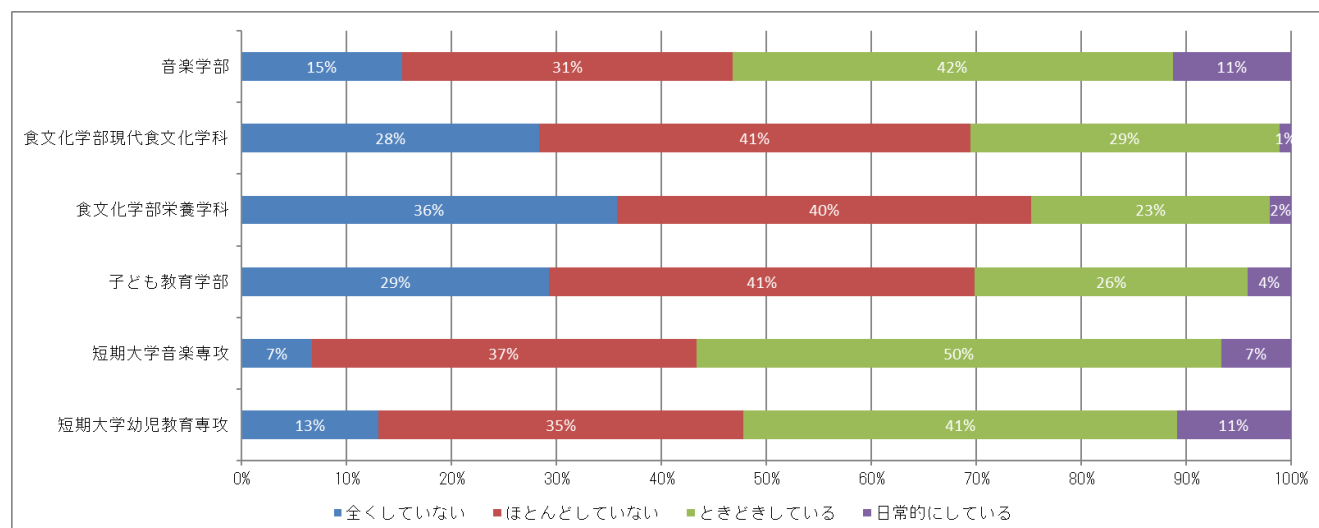
7) 授業（レッスン）時間外に、他の学生と一緒に学習したり、授業（レッスン）内容を話したりする



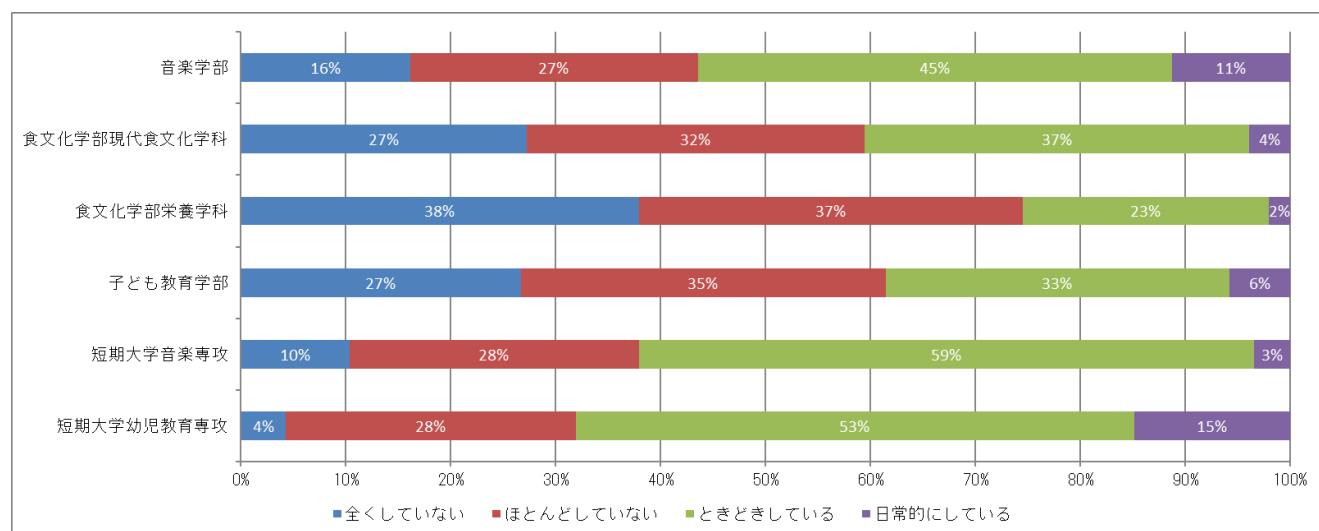
8) 教員と SNS（Facebook、mixi、LINE など）を利用してコミュニケーションをとる



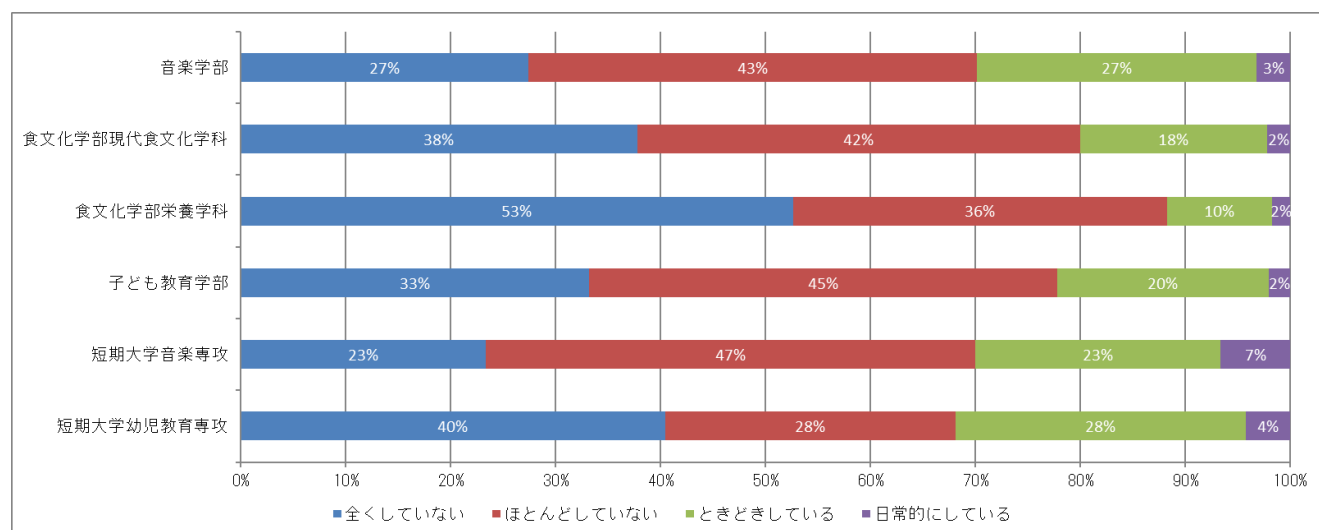
9) 教職員に学修の相談をする



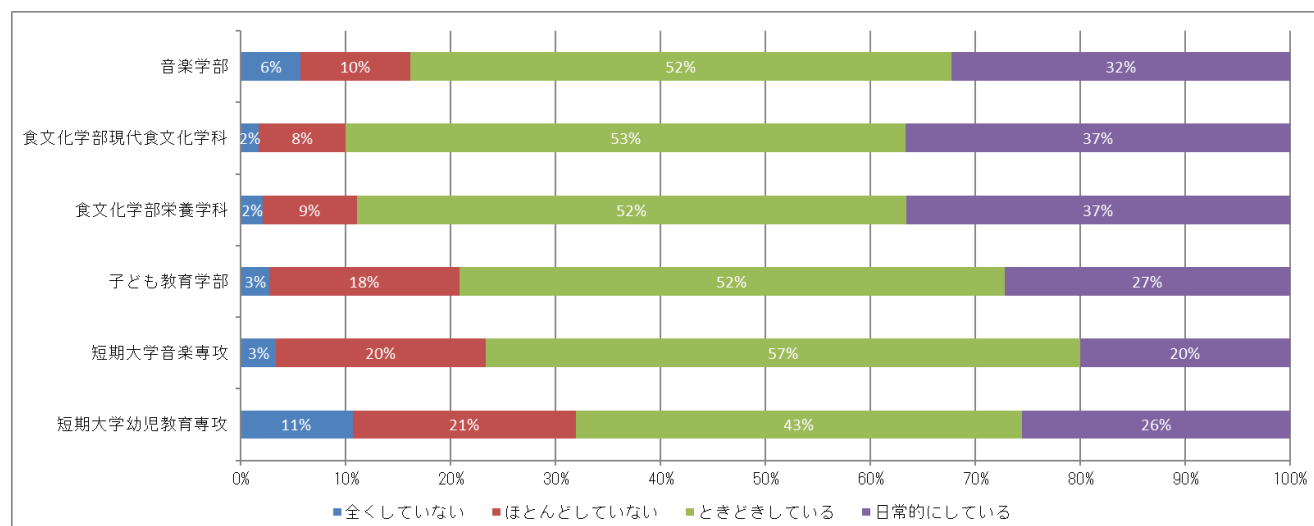
10) 教職員に進路の相談をする



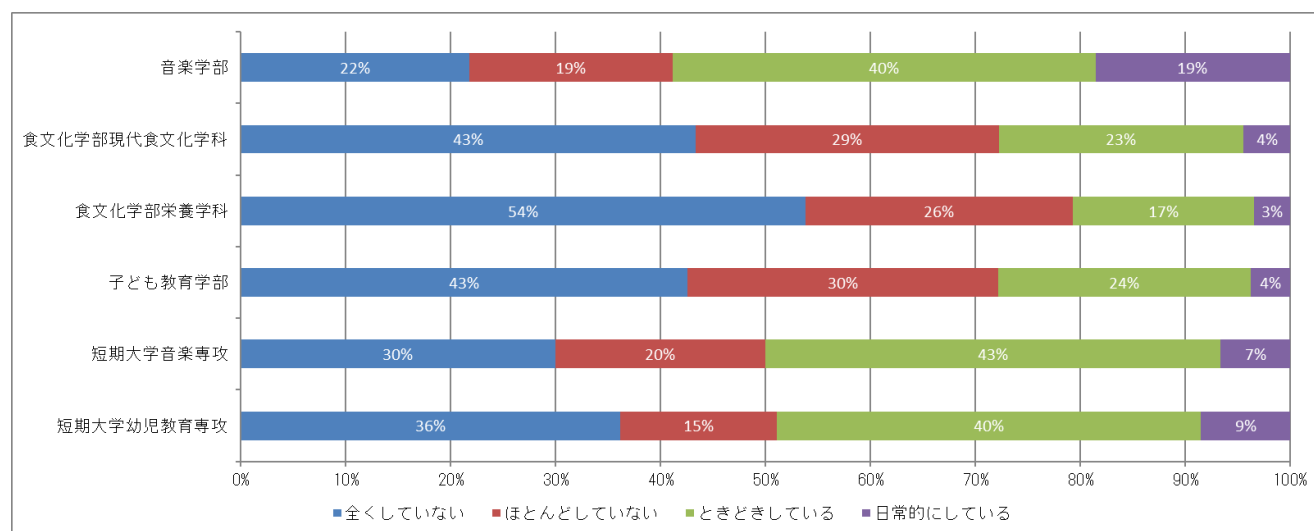
11) ポートフォリオを学業や課外活動のために利用する



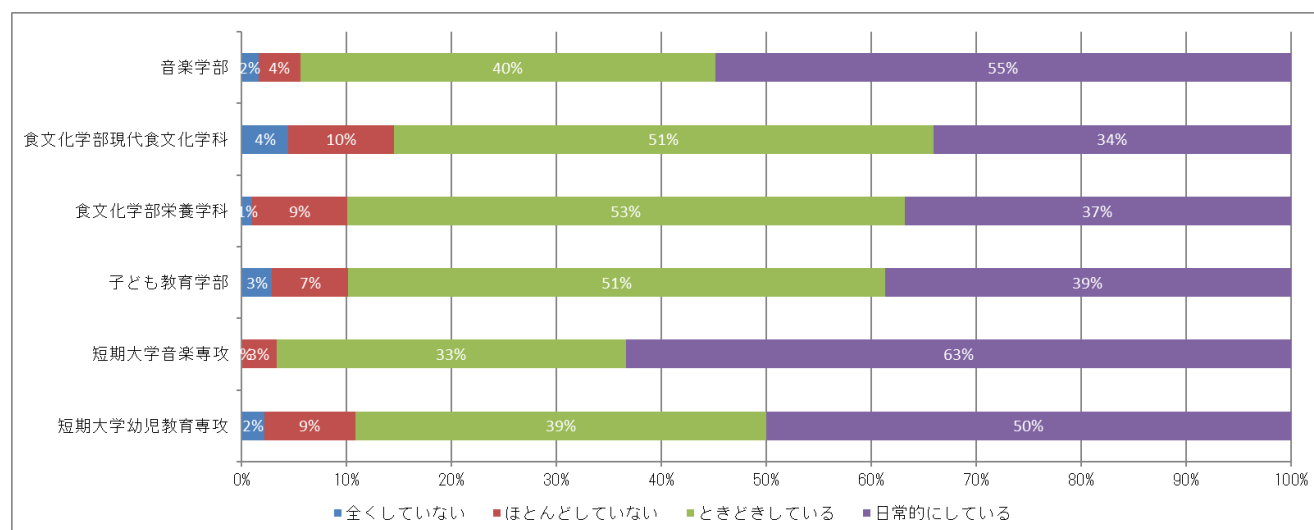
12) 読みや意味のわからない言葉があったら、辞典（ネット含む）で調べる



13) 大学の図書館にない本は、取り寄せてもらうか、自分で購入する



14) 授業やレッスンに集中して取り組む



Q11 について

「1) 正当な理由による欠席を別にすれば、授業には出席している」に対する回答によれば、昨年度も見られたが、授業にほとんど出席していないと回答している学生が若干名存在するのが気になる。特に、音楽学部では1割の学生がそのように回答している。

「2) 実験、実習、フィールドワークなどを実施し、体験的に学ぶ」や「4) 授業中に学生同士でグループワークをする」など、実験、実習、フィールドワーク、グループワークなどに関する活動では、昨年度と比べると全部局で改善が見られた。特に、音楽学部及び短大音楽専攻では大きく改善している。このような項目は学生自身の「学修行動」よりも授業担当者の授業方法によるところが大きく、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業がなされたものと考えられる。

3)で自分の考えを発表する機会について質問しているが、これは例年、肯定的回答率が低い。これも学生自身の「学修行動」よりも担当教員の授業形態によるところが大きいと考えられる。

8)のSNSでの教員とのコミュニケーションについての質問に対しては、音楽学部と短大2専攻において肯定的回答率が高い。9)の教員への学修相談及び10)の教員への進路相談に関する質問に対しても、音楽学部と短大2専攻において肯定的回答率が高い。食文化学部及び子ども教育学部では教員と学生のコミュニケーションが不足しているのではないかと考える。

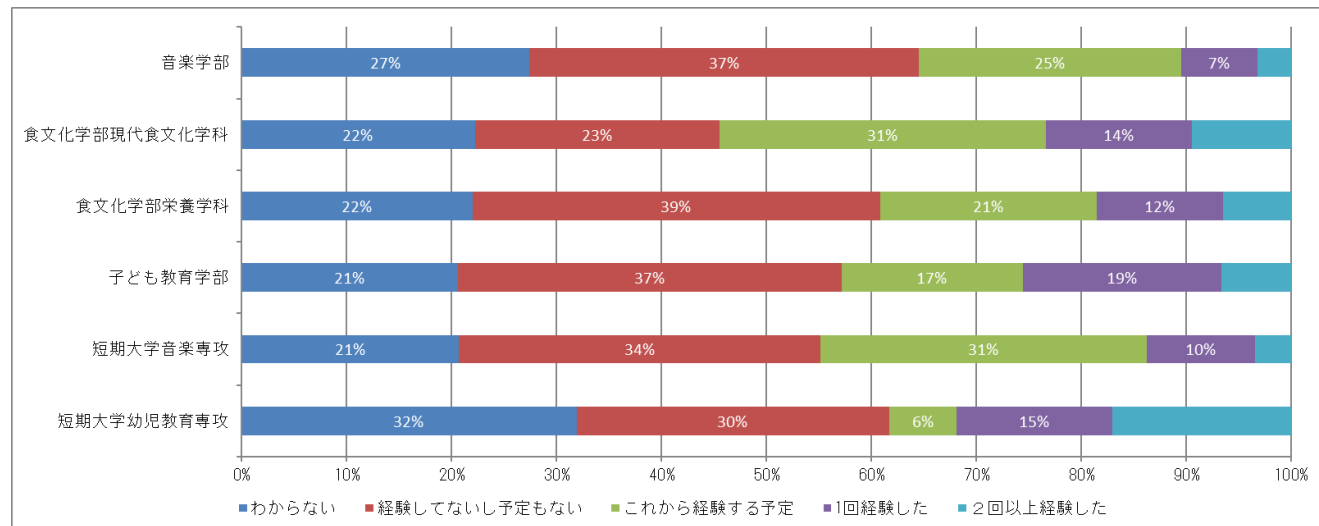
11)で尋ねたポートフォリオの利用については、昨年度と比較すると全部局で大きく改善された。ユニバーサル・パスポートのマイステップの記入を促進した結果ではないかと考えられる。

13)で図書の購入や図書館への購入依頼について質問しているが、食文化学部及び子ども教育学部では肯定的回答率が低い。

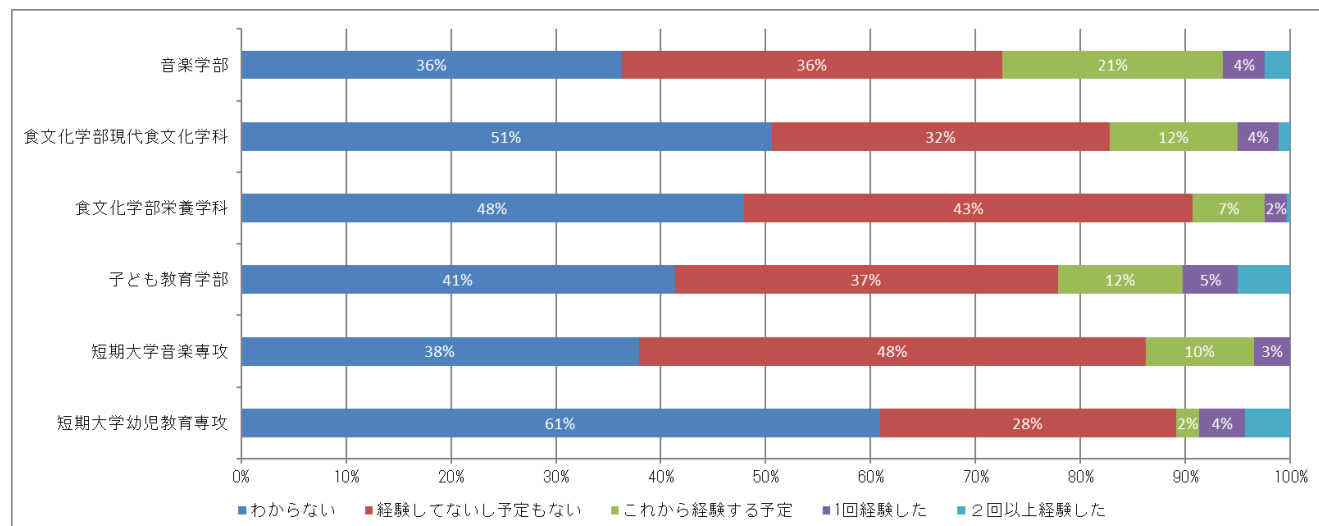
14)の授業やレッスンに集中して取り組んでいるかという質問に、音楽学部及び短大音楽専攻を除くと学生の約1割がネガティブな回答をしており、学修意欲の低さが気になる。

Q12 あなたは大学入学以来、社会と関わる次の経験をどれくらいしていますか。

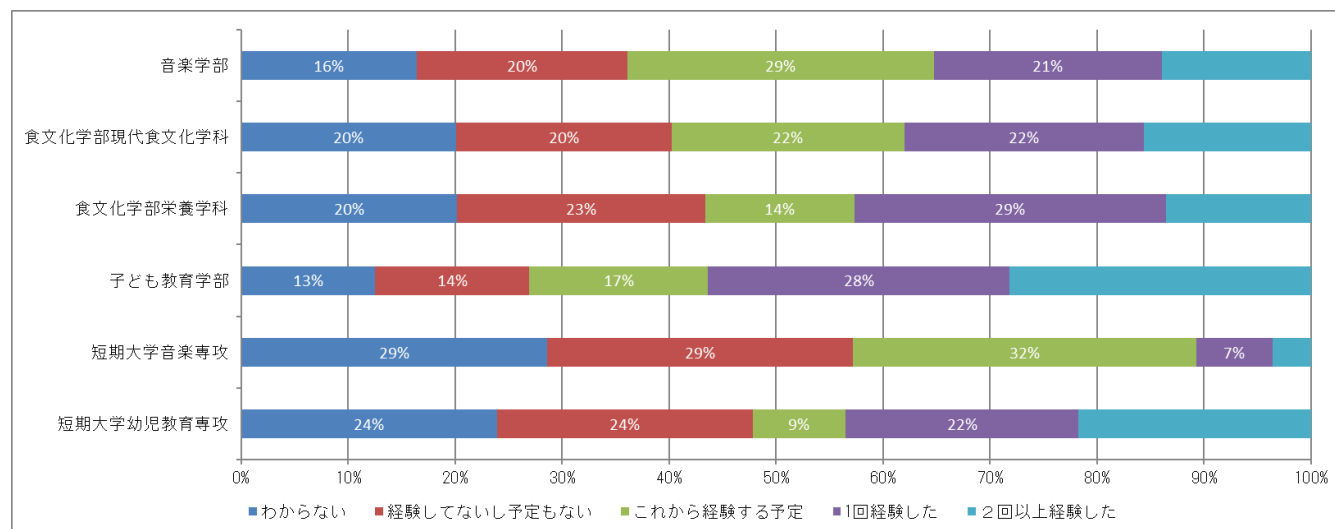
1) インターン・シップ



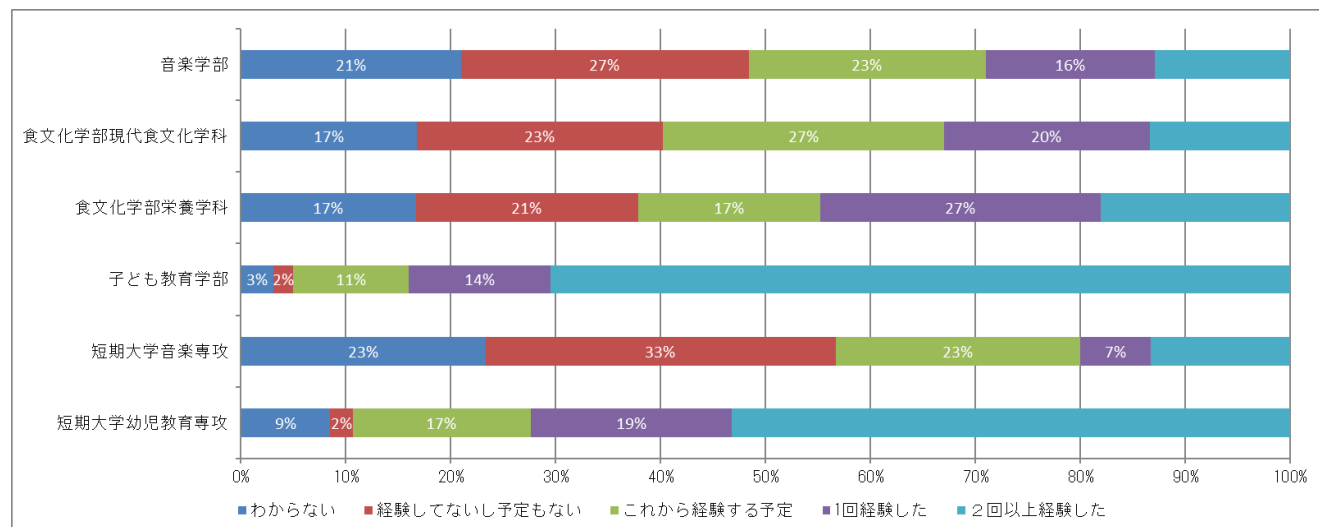
2) サービス・ラーニング



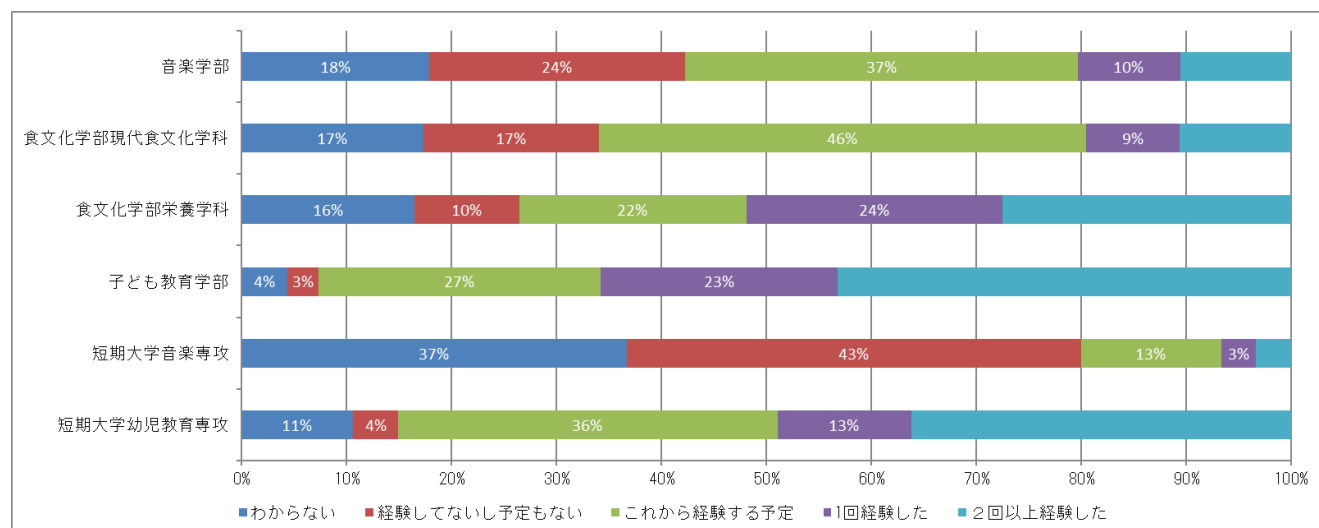
3) 社会（地域）貢献活動



4) ボランティア活動



5) 実習（教育実習、保育実習など）



Q12 について

1)のインターン・シップについては、例年、現代食文化学科での経験率が高いが、今年度はそれに加えて短大幼児教育専攻においても高くなった。

2)のサービス・ラーニングについては例年通り「わからない」の回答が多く、「サービス・ラーニング」という言葉そのものが理解されていないものと思われる。「わからない」の回答率も昨年からはほとんど変化していない。

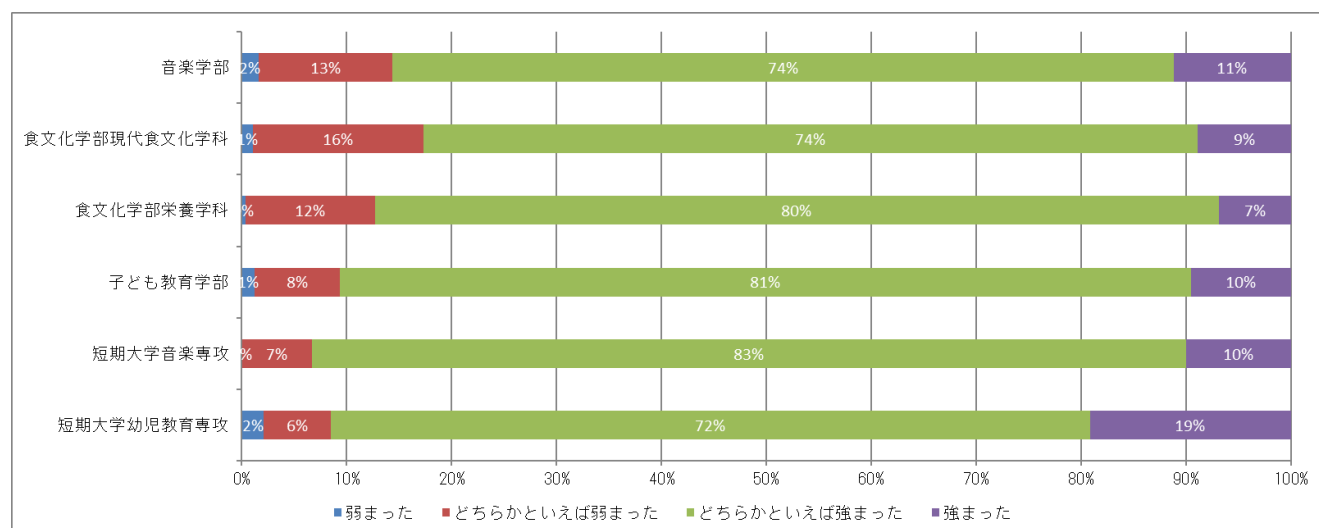
3)の地域貢献活動については、授業の一環でもあり、おおむね学生の過半数が経験している。

4)のボランティア活動については、子ども教育学部と短大幼児教育専攻で経験率が高い。これは実質的に進路選択にかかわるものが含まれているからだと考えられる。

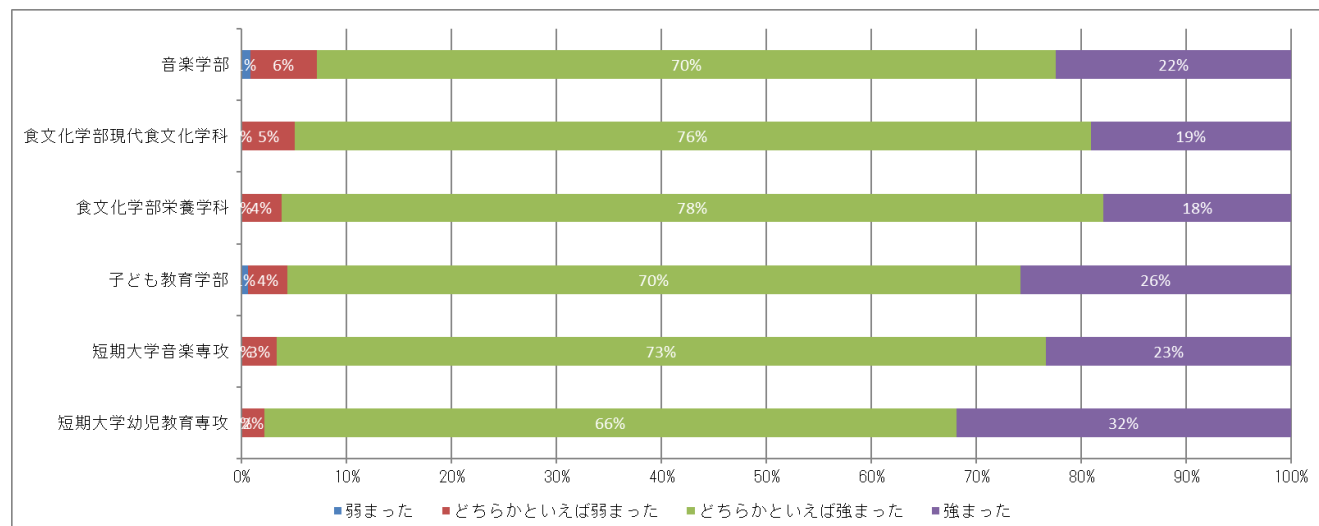
5)の実習経験は、各部局の免許・資格の取得状況によるものと思われる。当然ながら、免許・資格が取れない短大音楽専攻では肯定的回答率は低い。

Q13 入学した時点と比べると、あなたの能力はどのように変化しましたか。

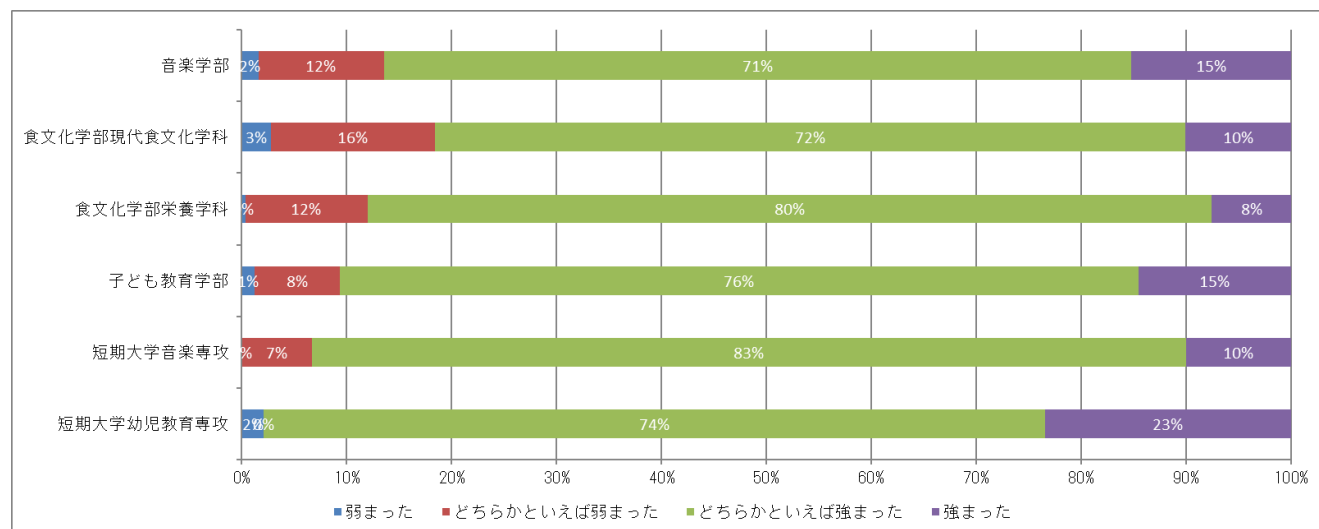
1) 自分の意見をわかりやすく伝える力



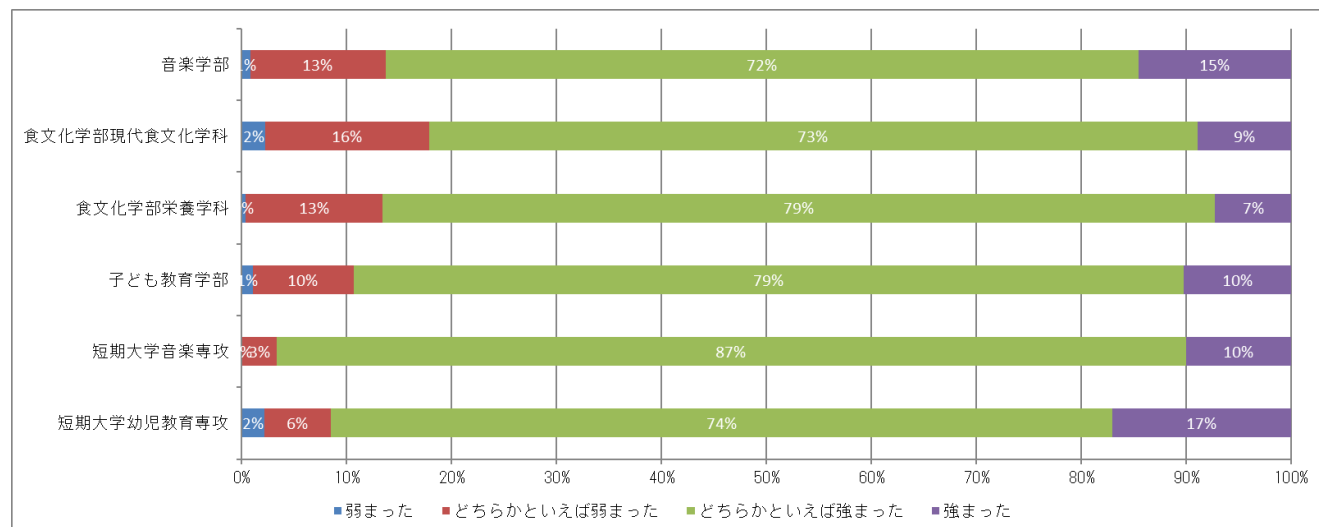
2) 相手の意見をていねいに聴く力



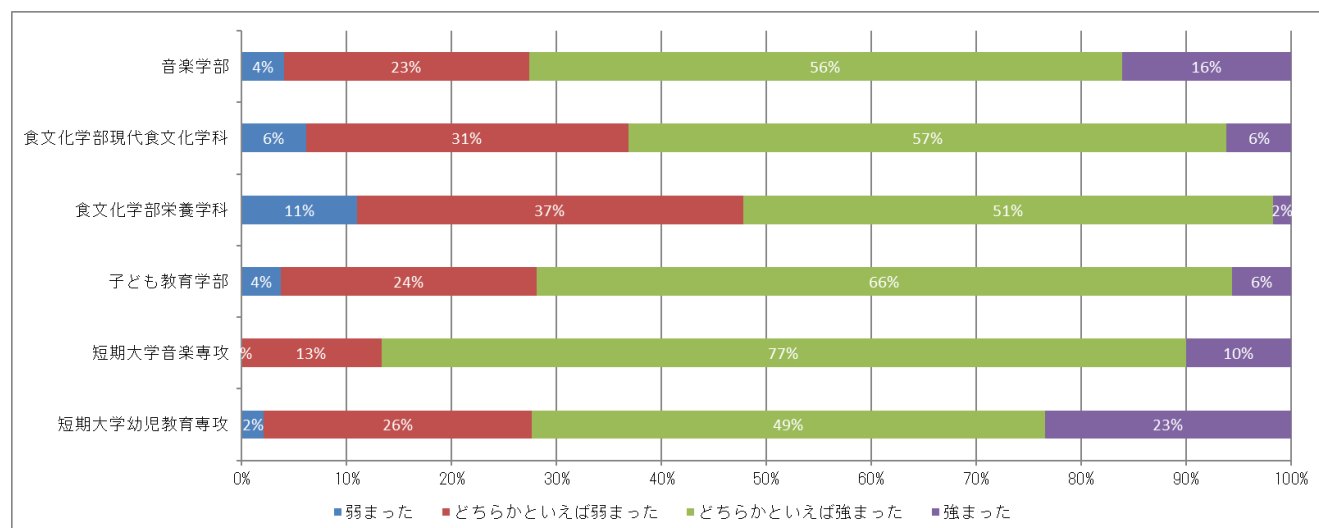
3) 日本語を用いて自分の意見をわかりやすく書く力



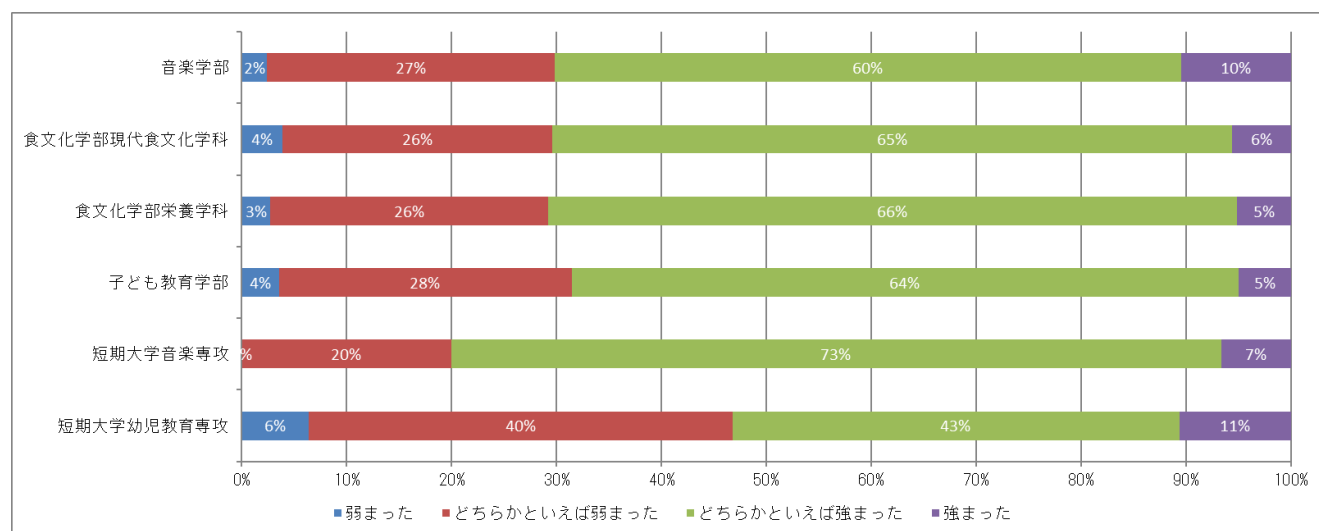
4) 日本語の文章の要点を的確に読み取る力



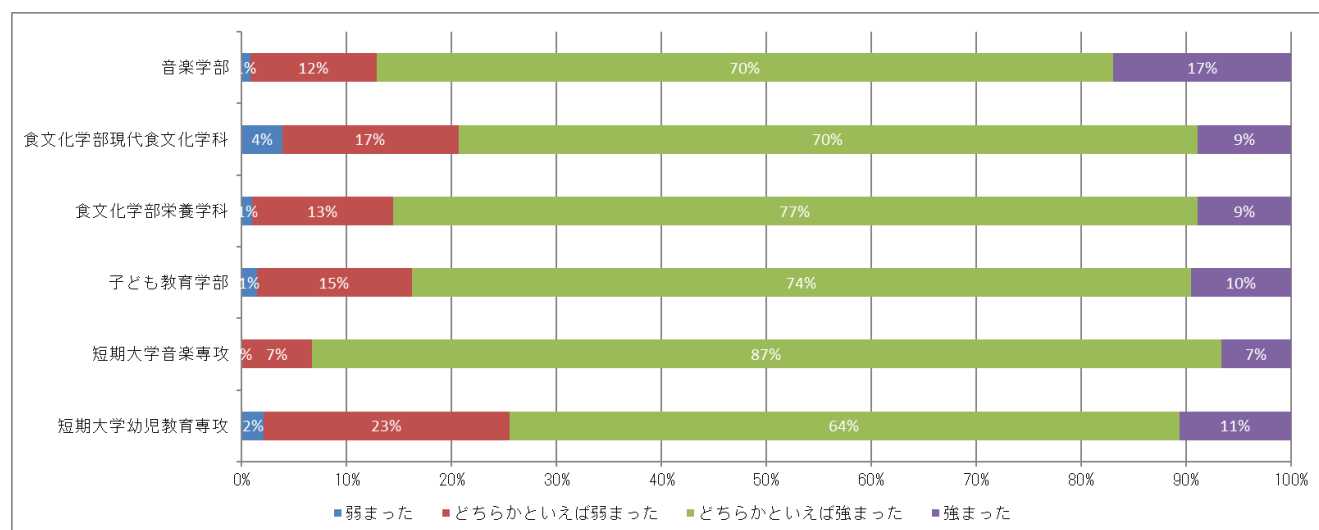
5) 外国語を用いてコミュニケーションをする力（読む、書く、聞く、話す）



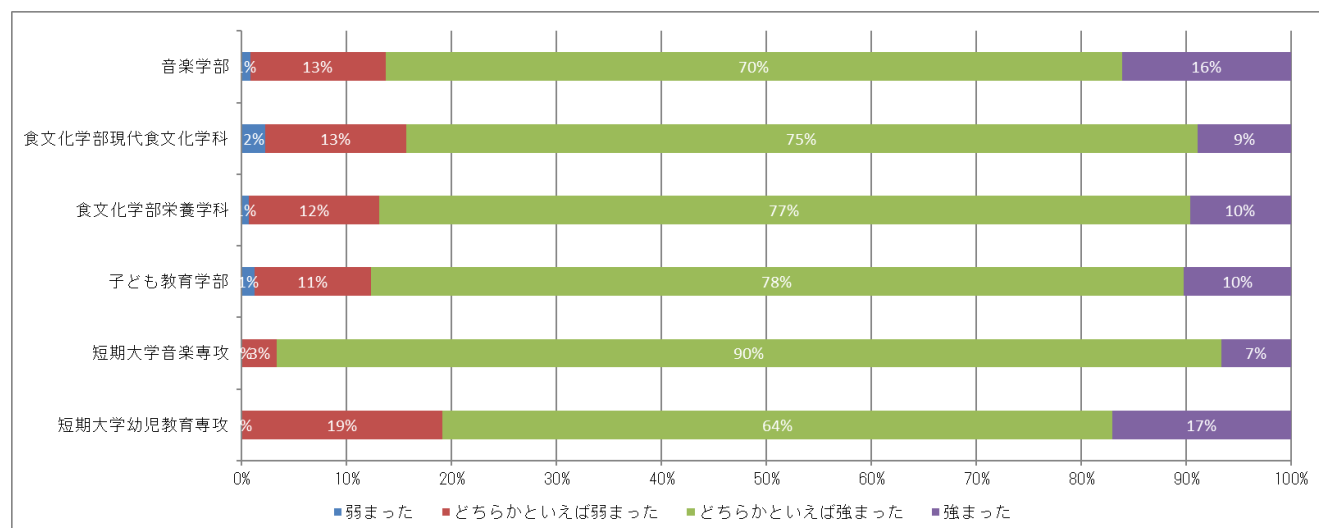
6) 数量的に分析し表現する力



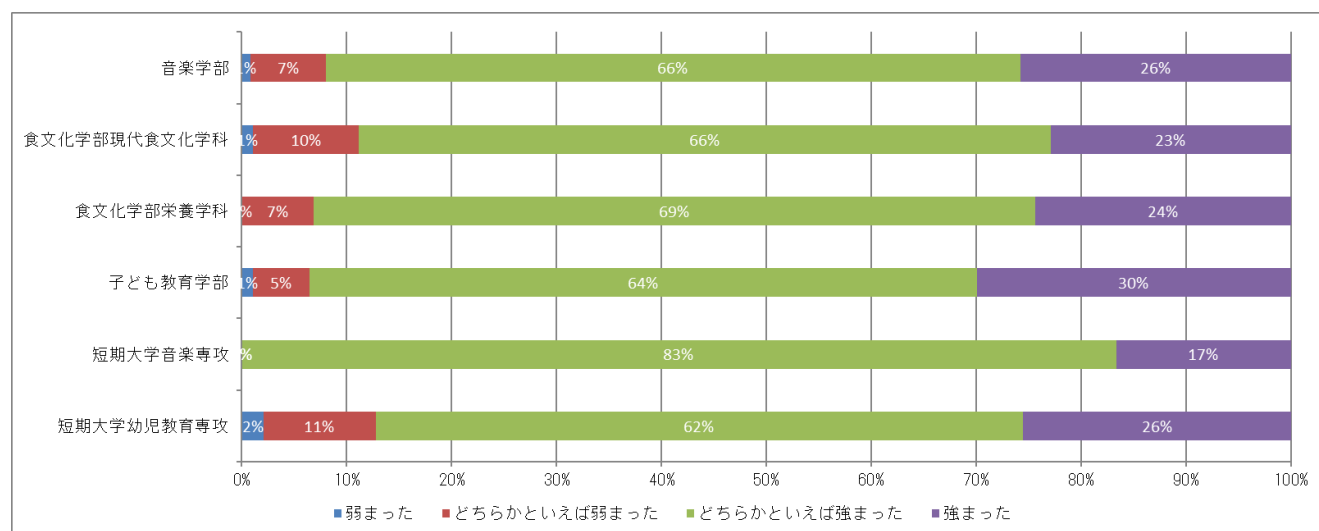
7) 多様な情報を収集・分析し、表現する力



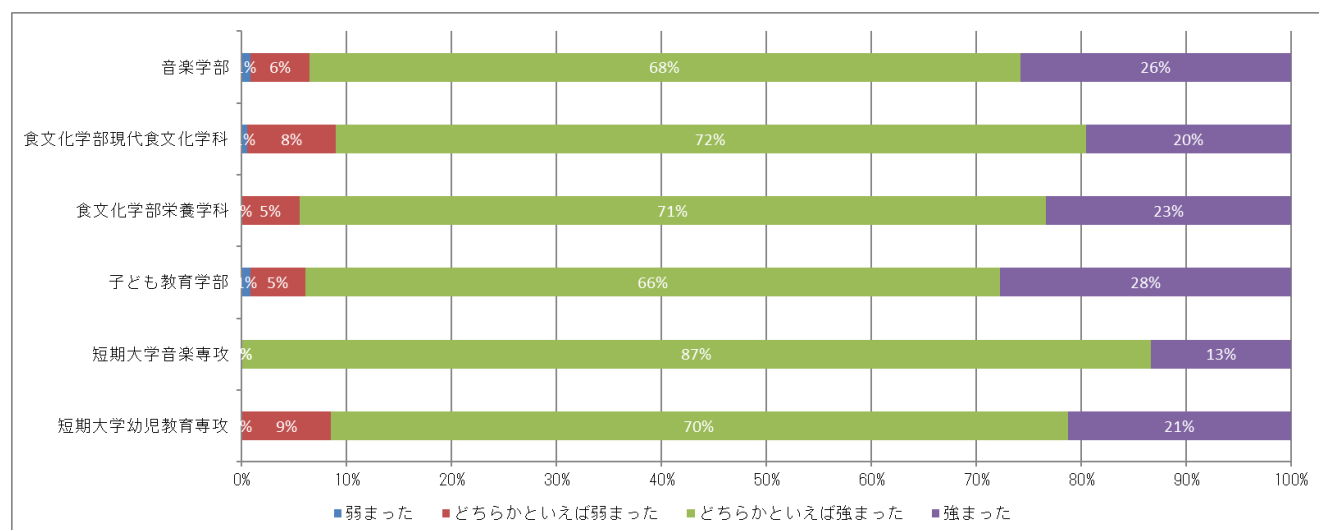
8) 問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決する力



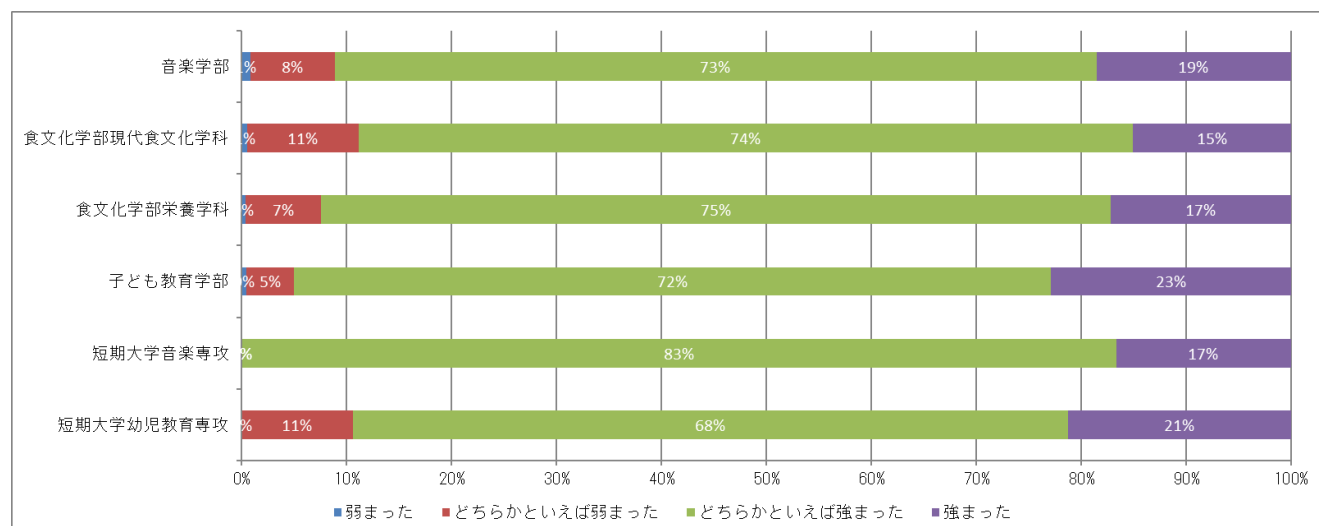
9) 他者と協調・協働して行動する力



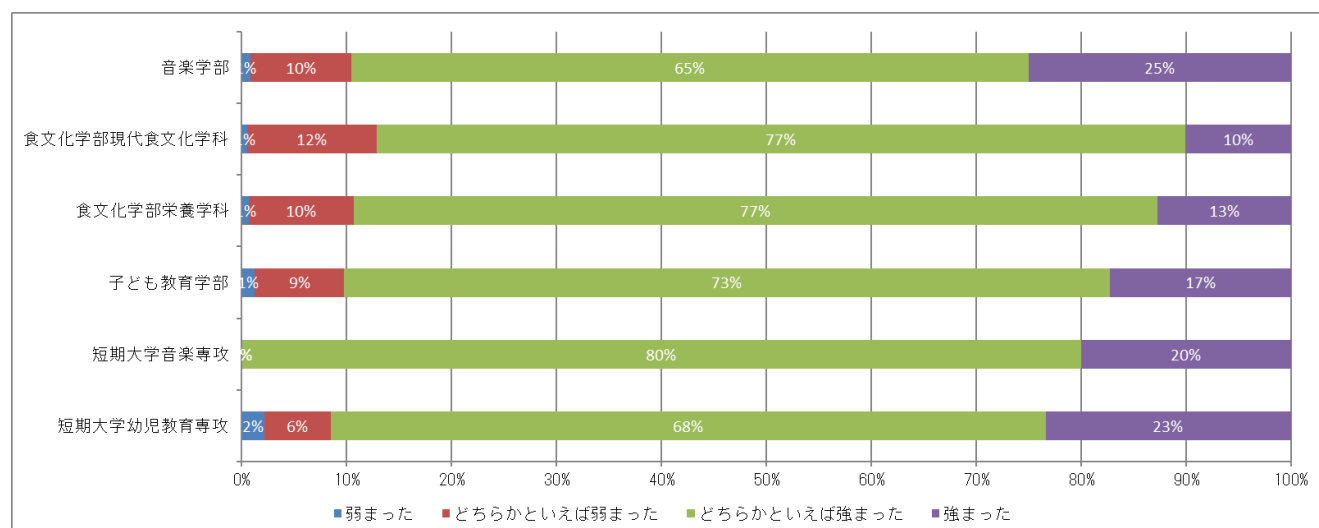
10) 自己の良心と社会のルールや規範に従って行動する力



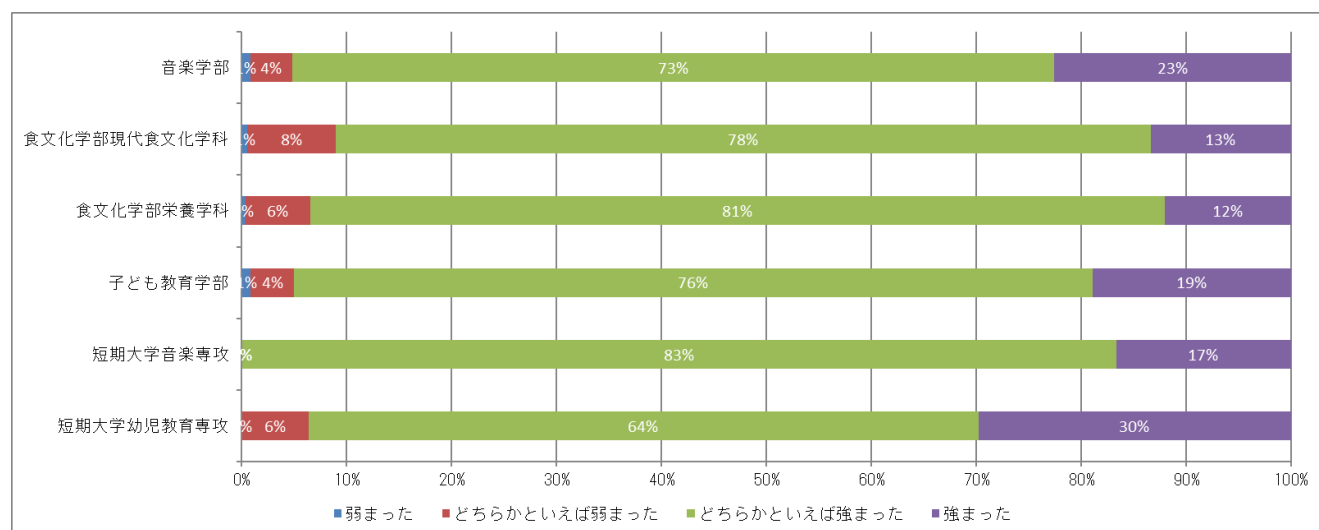
11) 社会の一員としての意識を持ち、社会に積極的に関与する力



12) 卒業後も自ら学び続けることのできる習慣



13) これまでに学んだ知識や経験を結びつけ総合的に活用する力



Q13 について

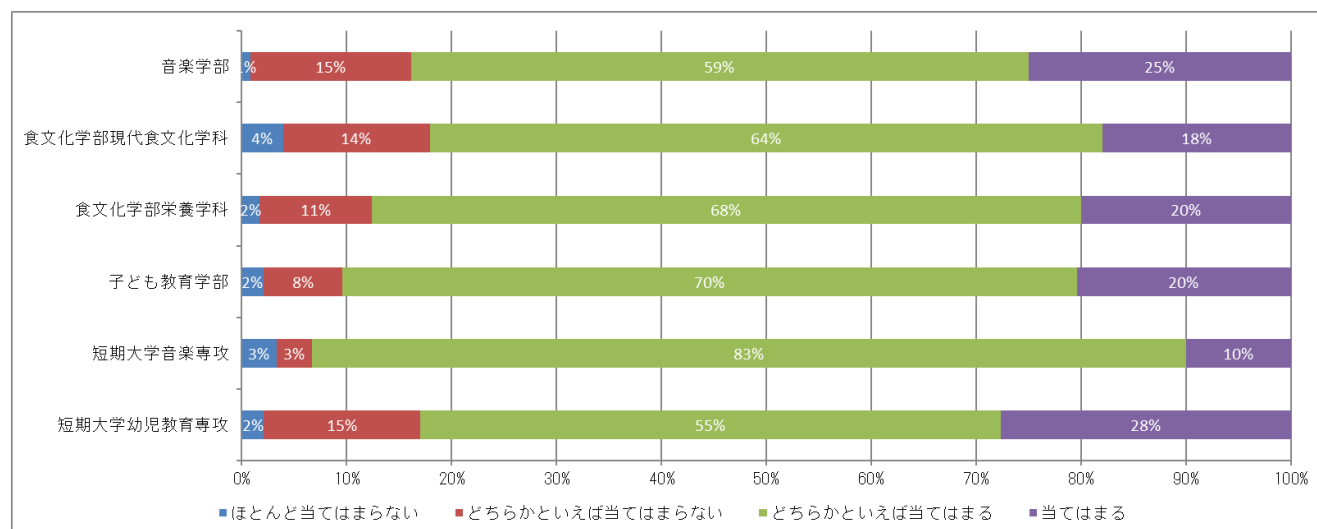
これらの項目についての「弱まった」及び「どちらかといえば弱まった」という回答は、大学入学後に知識技能が低下したことを意味しており、本来ならばあってはならない回答である。

特に、5)の外国語コミュニケーション及び6)の数量的な分析についての質問に対するネガティブな回答が目立つ。入学以前から英語、数学などに苦手意識をもっていた学生がそのように回答していることも考えられる。また、本学学生にとってそれらが専門科目ではないことも影響していると思われるが、一般教養科目などにおいて改善をはかる必要がある。

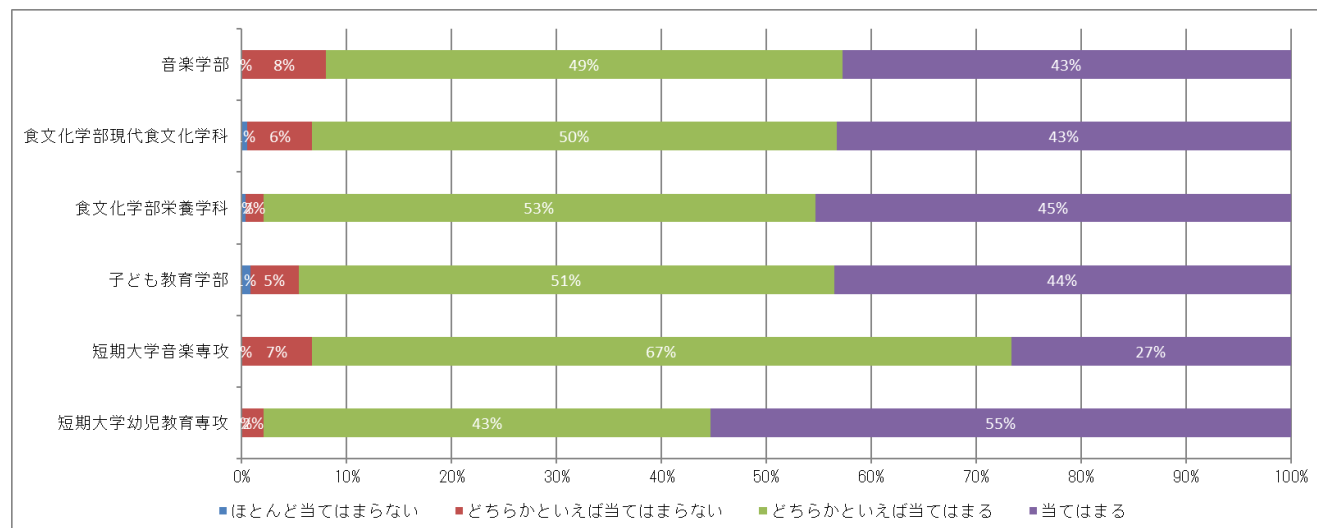
また、Q13の質問全体を通して短大幼児教育専攻でネガティブな回答が多い。

Q14 今年度受講している科目全般について、以下のことはどれくらい当てはまりますか。

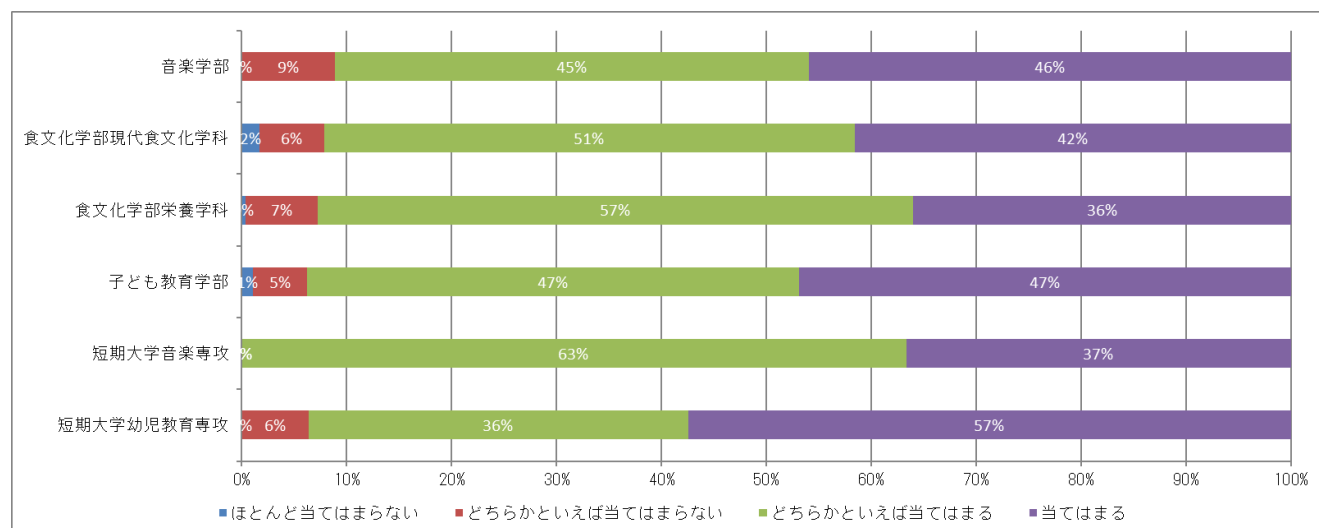
1) 科目と科目のつながりを意識して履修している



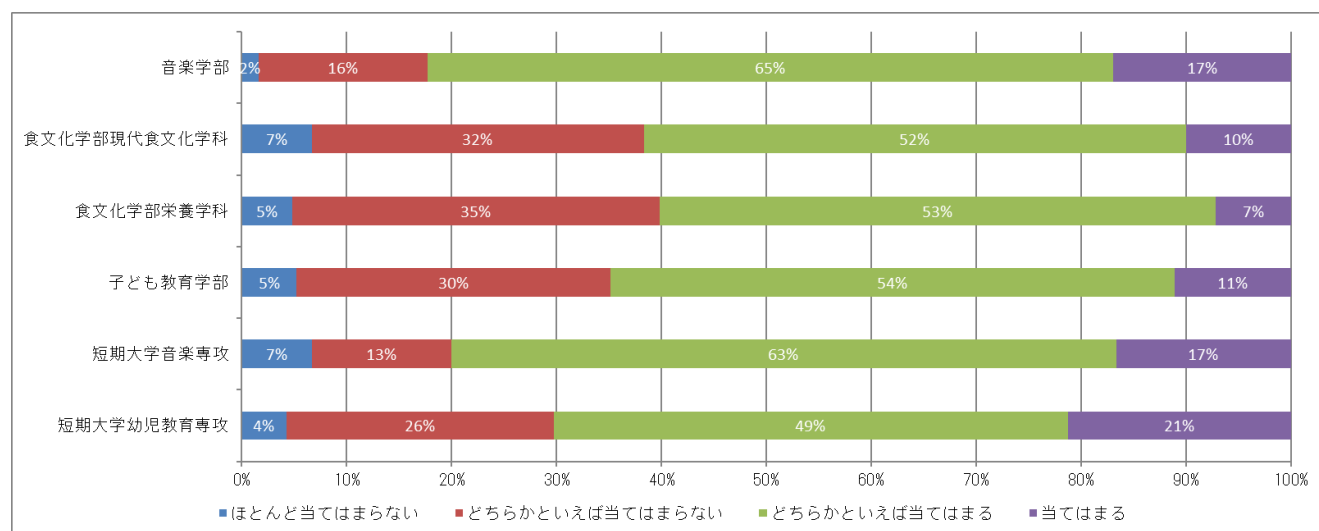
2) 興味がわからない授業でもきちんと出席する



3) なるべく良い成績をとるように努めている



4) 必要な予習や復習をした上で授業にのぞんでいる



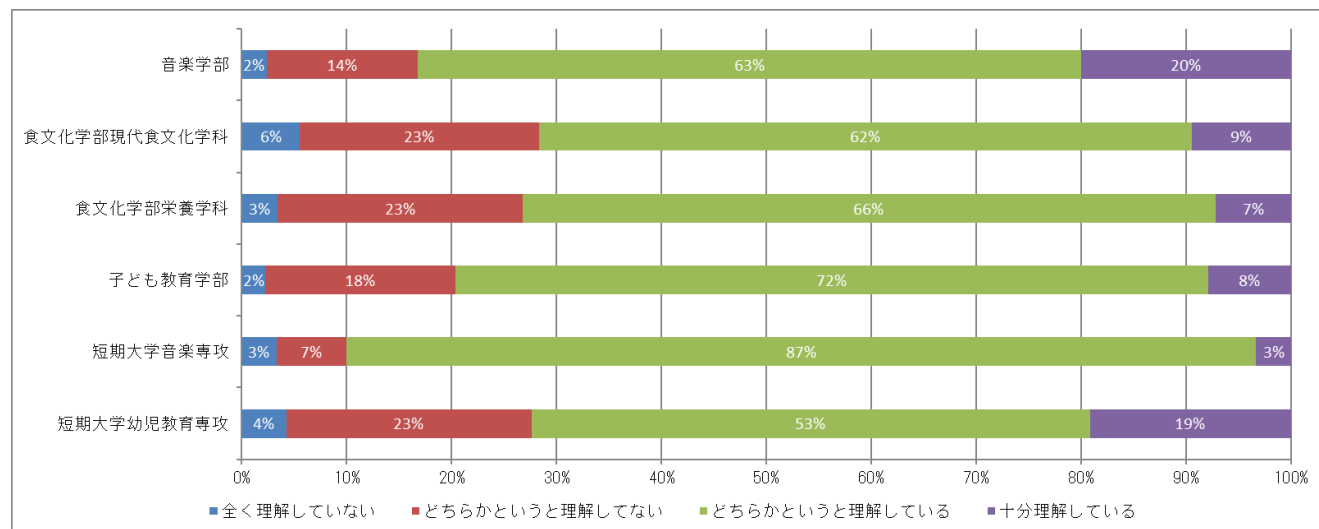
Q14 について

学修時間についての調査結果にも現れていたが、予習・復習をしていない学生が少なくない。食文化学部では学生の約 4 割がそのように回答している。音楽学部及び短大音楽専攻では予習・復習の時間が比較的確保されているが、これはほぼ実技レッスンのための練習時間であると思われる。

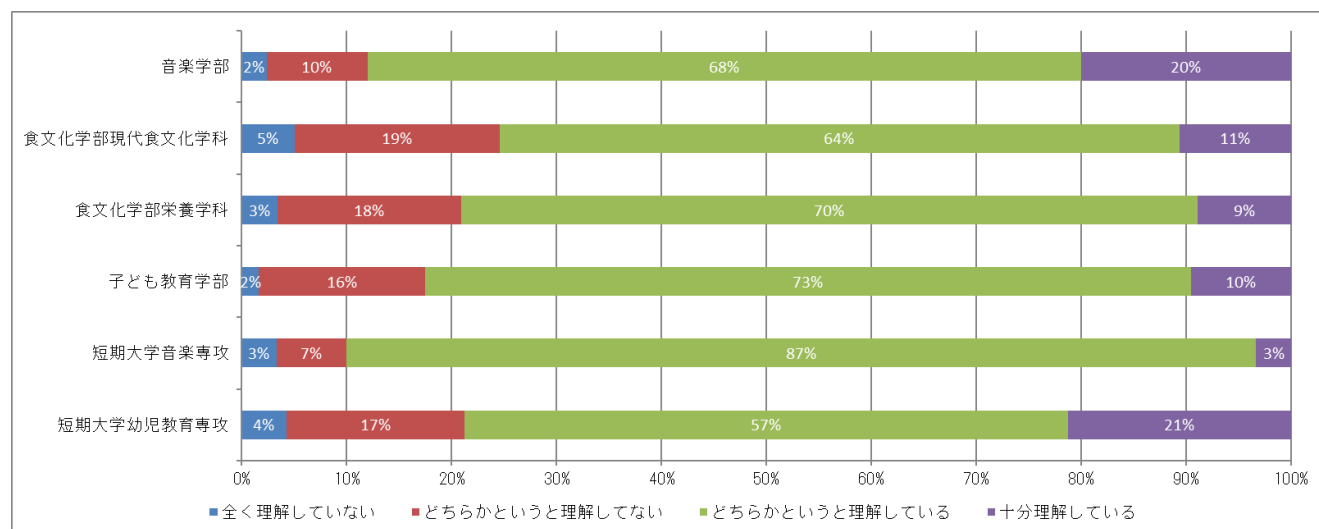
本来、単位認定は予習・復習時間を含めて行われるものであり、この時間が十分に確保されていないのは大きな問題である。

Q15 以下のことについて、あなたはどの程度理解していますか。

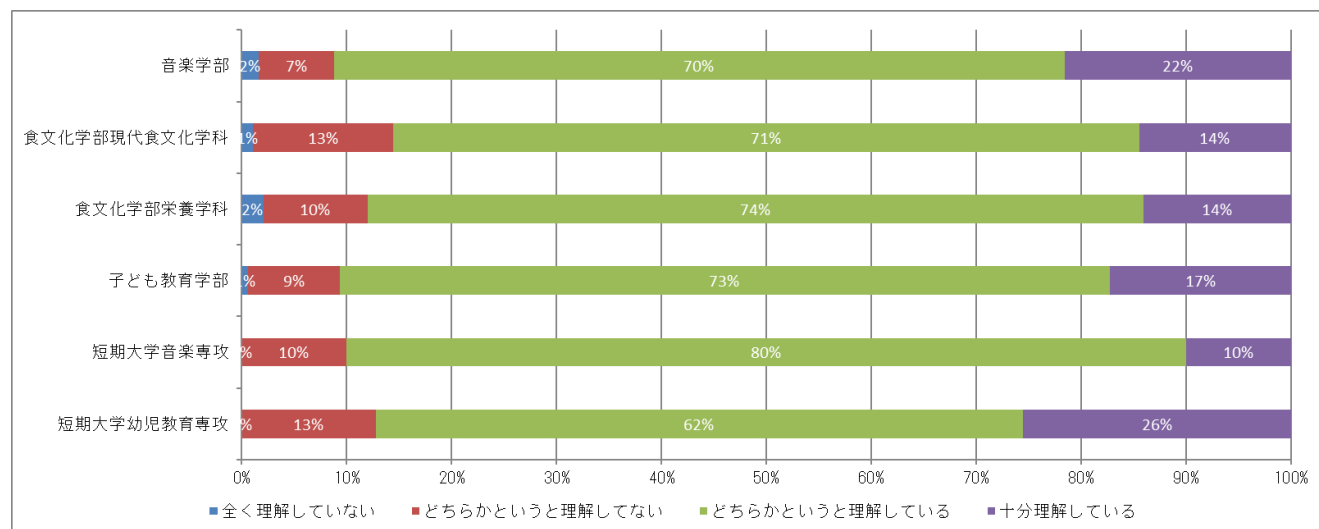
1) 大学の教育目標について



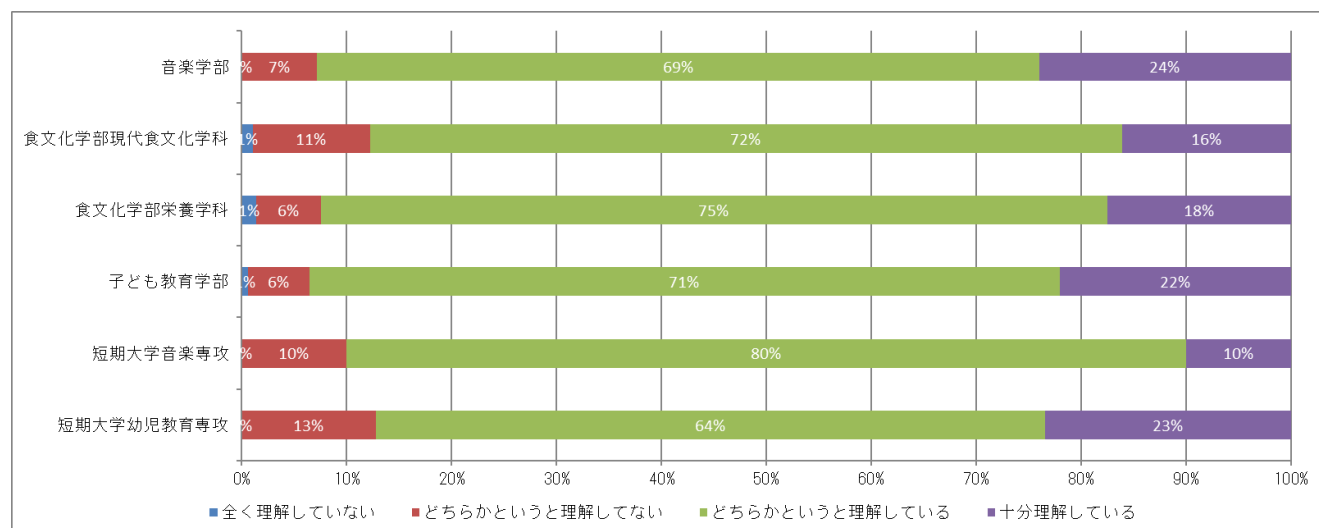
2) 学科の教育目標について



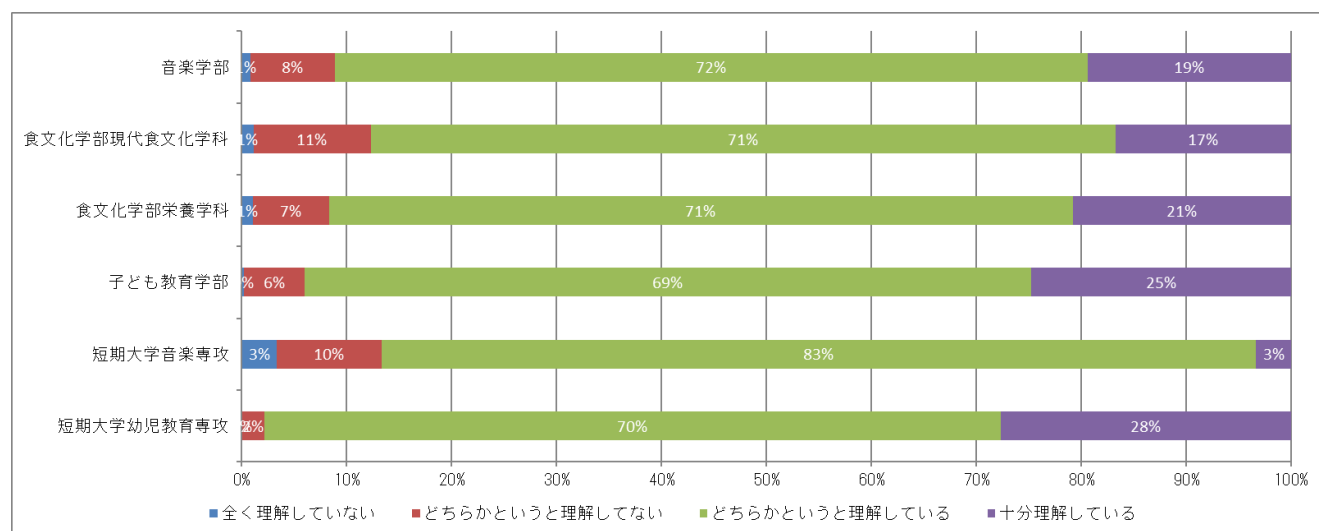
3) 科目履修の順序について



4) 履修に必要な情報について



5) 資格取得に関する情報について

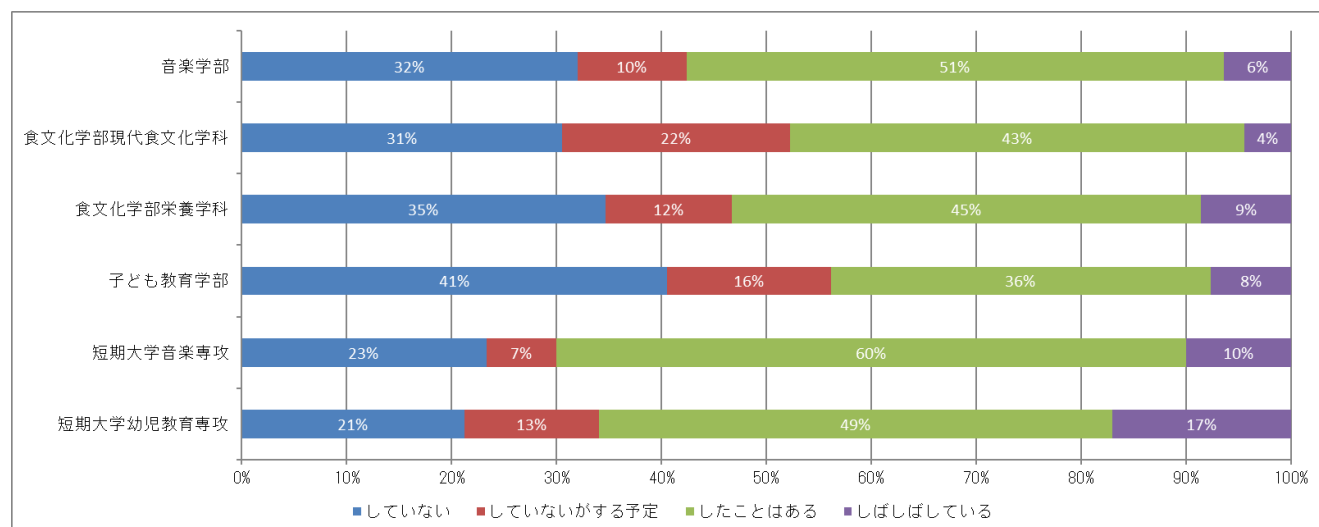


Q15 について

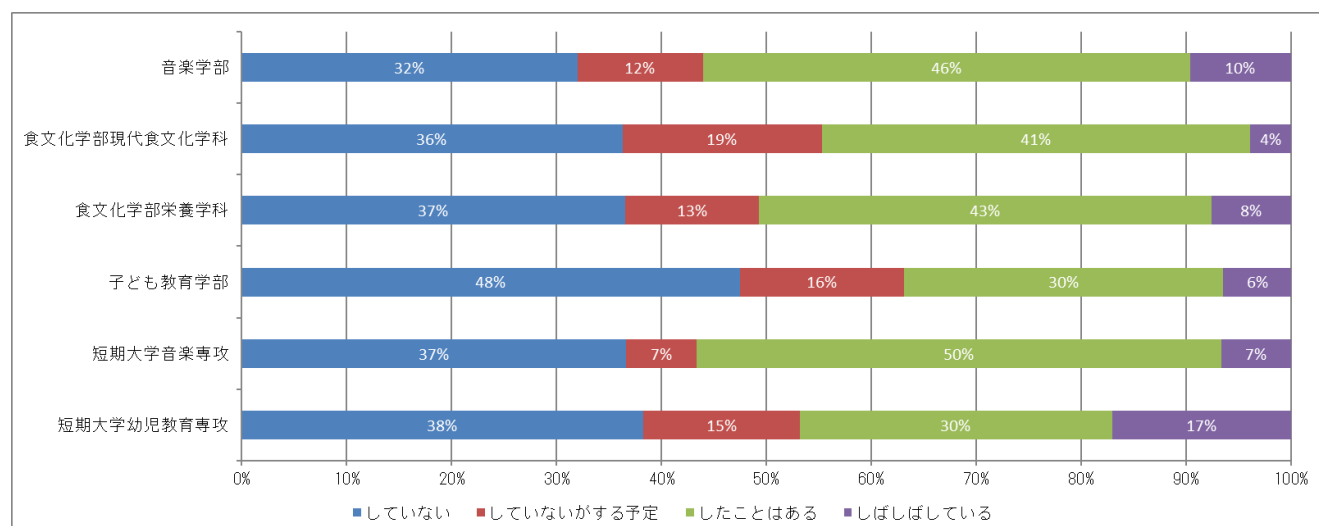
これらの項目については概ね理解されているが、大学及び学科の目標については、音楽学部生及び短大音楽専攻生を除くと理解度がやや低い。

Q16 今年度、以下のことについて、あなたはアドバイザーやゼミナールの教員に質問や相談をどの程度しましたか。

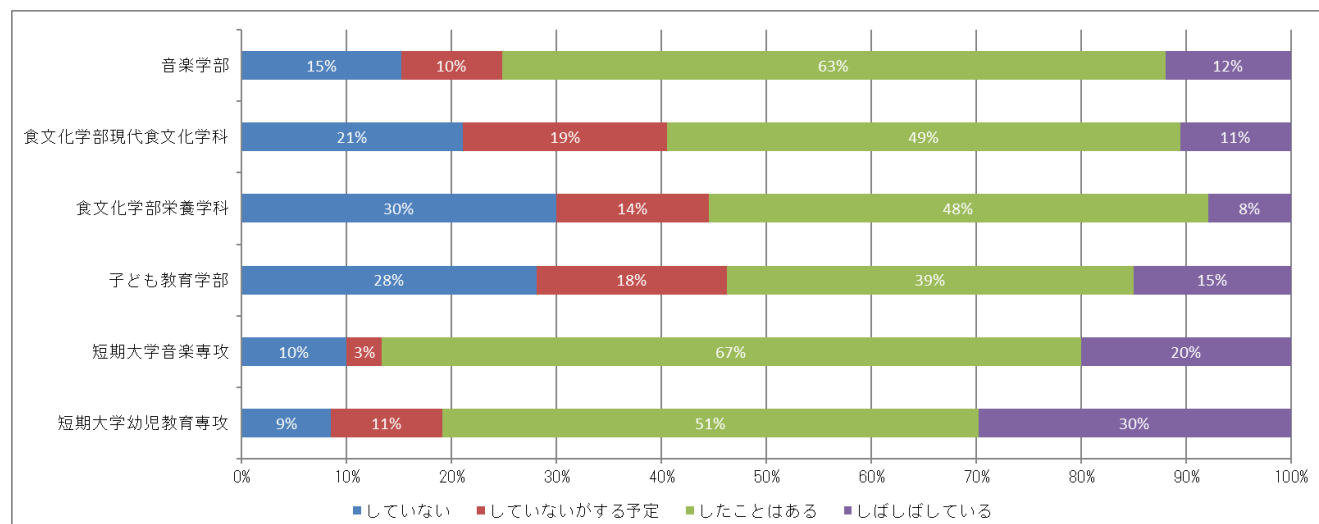
1) 科目の履修状況や成績について



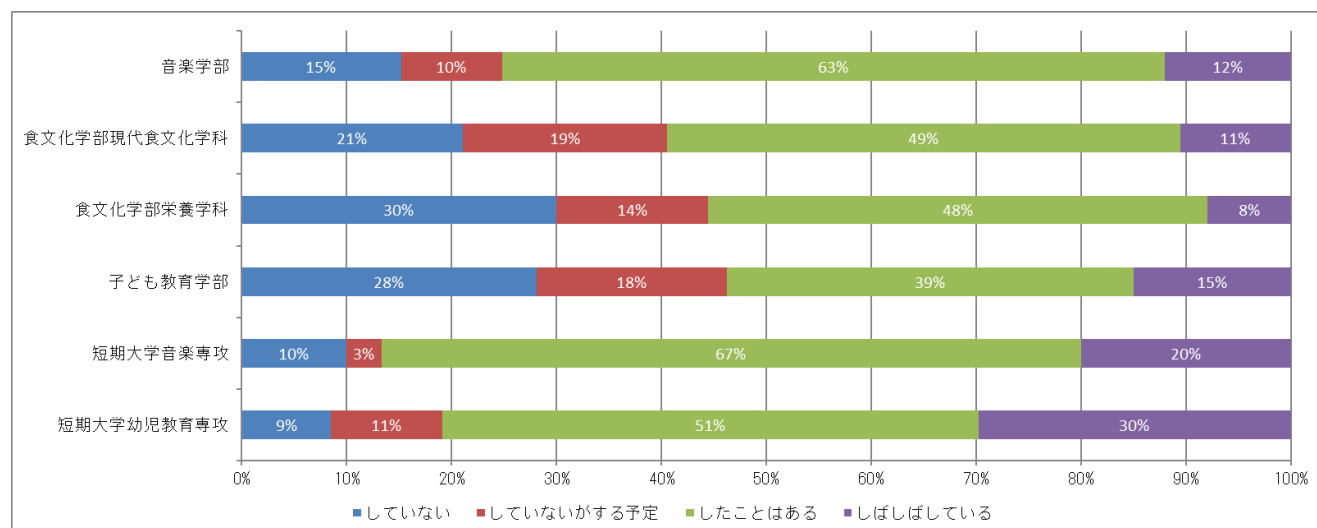
2) 学習の仕方について



3) 卒業後の進路について



4) 大学生活において起こる問題について



Q16 について

これらの項目については、Q11の「8) 教員とSNSを利用してコミュニケーションをとる」、「9) 教職員に学修の相談をする」及び「10) 教職員に進路の相談をする」に対する回答と同様に、食文化学部及び子ども教育学部での肯定的回答率がやや低い。様々な問題はあるが、学生との連絡ツールとしてSNSの利用を含めて、積極的なコミュニケーションを図っていく必要がある。

以上